十九條（迄）

同第二十四條　審査委員會ハ改選後第一回開會ノ初ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ

同第二十五條　審査委員會ハ定員ノ過半數出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

同第二十六條　審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

同第二十七條　審査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

同第二十八條　税務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

同第二十九條　審査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ税務監督局長ニ通知スヘシ

審査請求中ノ納税

訴願又ハ訴訟ノ提起

第三十八條　納税義務者ハ第三十六條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖通知ヲ受ケタル所得金額ニ依リ税金ヲ納ムヘシ

第三十九條　所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

參照法令

訴願法

第二條　訴願セムトスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其ノ裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ（三項略）

第五條　訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ渉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條　訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

訴願書ニハ證憑書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第八條　行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ之ヲ受理スルコトヲ得

第十條　訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

行政裁判法

第十七條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外地方上級行政廳ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

（二項略）

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第二十二條　行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス

第二十四條　行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條　訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一　原告ノ身分、職業、住所、年齡

二　被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三　要求ノ事件及其理由

四　立證

五　年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書竝ニ證憑書類ヲ添フヘシ

第二十六條　訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

行政實例

所得金額決定ニ對シテハ先ツ審査決定ヲ經ヘキモノニシテ直ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得ス（四二、三、三〇長崎税務監督局ニ回答）

行政裁判例

一　税務監督局長ノ決定ヲ不當トシ大藏大臣ニ訴願シタル者ハ其ノ裁決ニ不

服ナルモ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス（三十八年第三百四號同年十一月二十日宣告）

二　第一種所得決定ニ對シ異議アルトキ審査ヲ求メスシテ直ニ行政訴訟ヲ提起スルカ如キハ法律ノ許ササル所ナリ（四十年第百六十號四十一年四月十四日宣告）

三　税務署長ノ通知シタル所得金高ニ異議アルトキハ審査ノ請求ヲ爲シ其ノ決定ヲ經ルニ非サレハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス（四十年第百七十五號四十一年十二月二十四日宣告）

第一〇章　減損更訂

更訂請求ノ程度及期限

第四十條　第三種ノ所得ニ付納税義務アル者收入豫算年額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ヲ適用セス

行政裁判例

所得更訂請求棄却ノ決定ニ對シテハ普通ノ手續ニ依リ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得（四十二年第十四號同年四月三十日宣告）

更訂ノ程度

第四十一條　前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ所得金額ヲ査覈シ收入豫算年額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂ス

行政實例

一　戸主家族ト合算決定シタル場合ニ家族ノミニ四分ノ一以上減損アルトキハ家族ノ所得ハ之ヲ更訂ス（三二、九、一五東京税務管理局ニ回答）

二　官吏カ俸給四分ノ一以上減損ノトキハ假令退官後貯金等ノ收入アルモ更訂ス（三二、一〇、四東京税務管理局ニ回答）

三　法第四條第一項第三號本文及但書末段（現行四條ノ三第二號及第三號）田畑山林以外ノ所得ハ一種類ノ損失ヲ他ノ種類ノ利益ト交互計算ス（三四、八、二〇根室税務管理局ニ回答）

四　納税義務者死亡ノ爲メ相續人ヨリ更訂請求アリタルトキ相續人ニモ所得

アルコトヲ發見スルモ之ヲ併算セス（三五、三、二五鹿兒島税務管理局ニ同答）

五　本人ノ死亡ニ依リ減損スル所得ハ本人ノ一身ニ專屬スル所得ノミニシテ財産ヨリ生スル所得ハ死亡ニ因リ減損トナラス（四一、四、一〇東京税務監督局ニ同答）

六　更訂處分ニ依ル税金還付時効ハ更訂スヘキ事實ノ生シタル年度ノ翌年度ヨリ起算ス（四五、一、一八仙臺税務監督局ニ同答）

七　山林ノ所得ハ更訂スヘキモノニアラサルモ四分ノ一以上減損セシヤ否ハ總所得ニ付決スヘキモノトス（大正元、八、二二丸龜税務監局督ニ同答）

訴願裁決例

海産物取引ノ一部ニ關スル收支ヲ表示スルモ有取引ノ全部ニ通スル損益ヲ立證セサルヲ以テ更訂スヘキモノニアラス（三六、四、二七）

改算方及通知

施行規則

第三十七條　所得税法第四十條ノ申出アリタルトキハ税務署長ハ左記各號ノ定ムル所ニ依リ所得金額ヲ改算更訂シ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

一　收入豫算年額ニ減損ヲ生シタルトキハ其ノ減損額カ收入豫算年額ノ四分ノ一ニ達スル場合ニ限リ其ノ收入豫算額ヨリ之ヲ控除ス但シ俸給・給料・手當又ハ歳費ノ收入豫算年額又ハ減損額ニ付テハ十分ノ九ヲ乘シタルモノニ依リ之ヲ計算ス

二　所得税法第四條ノ五ニ依リ控除スヘキ金額ハ前號ニ依リ計算シタル後之ヲ控除ス

税金徴收猶豫

第四十三條ノ一　第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ確定ニ至ルマテ税金ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第一一章　納期

期限

第四十二條　第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得税ヲ徴收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得税ヲ

徴收シ其ノ都度之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得税ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徴收ス但シ納税管理人ヲ置カスシテ帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ其ノ所得税ヲ徴收スルコトヲ得

第一期　其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期　其ノ年十一月一日ヨリ十五日限

第三期　翌年一月一日ヨリ十五日限

第四期　翌年三月一日ヨリ十五日限

第二項ノ規定ニ依リ徴收スヘキ所得税ヲ徴收セサルトキ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國税徴收法ニ依リ支拂者ヨリ徴收ス

行政實例

一　第二種所得税ノ所屬年度ハ金庫ニ於テ税金ヲ徴收シタル日ニ依ル（三二、六、一〇主税局通牒）

二　賦課スヘキ法人所得税ノ時効計算ハ事業年度最終日ヨリ起算ス（四五、一一八廣島税務監督局ニ回答）

三　第二種所得税ノ過誤納下戻處分ハ其ノ税金ヲ現實徴收シタル管理局ノ管轄ニ屬ス（三二、八、一八主税局通牒）

四　戸主ト同居スル養子ノ所得ヲ合算シ申告決定シタル後養子離縁スルモ税額ヲ變更セス（三二、九、一五東京税務管理局ニ回答）

五　納税義務者死亡スルモ納税義務ハ其ノ相續人ニ移轉ス（三二、九、二五松山税務管理局ニ回答）

六　納税者ノ居所不明ノ爲メ決定書ノ交付ヲ了セサルモノハ一應調定額ヲ減シ通知書交付ノ上調定ス（四三、一二、一二廣島税務監督局ニ回答）

七　決定後納税義務者死亡シ相續人ナク且遺産ナキモノニ付テハ死亡當時納税義務消滅ト認メ賦課額ヲ除却ス（大正二、三、三仙臺税務監督局ニ回答）

八　第三種所得決定通知交付以前ニ於テハ納税義務確定セサルヲ以テ納税義務ハ相續人ニ移轉セス（四四、九、二五廣島税務監督局ニ回答）

二種所得税ノ徴收法

施行規則

第三十四條　公債社債ノ利子ヲ支拂フモノハ支拂ノ際所得金額

ヲ控除スヘシ

同居者別居ノ場合

第三十三條　所得税法第三條第六項ノ場合ニ於テ同居者所得金額決定後別居スルモ所得金額決定當時ノ税率ニ依リ其ノ年ノ所得税ヲ納ムヘシ

二種所得税拂込手續

同第三十六條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體若ハ組合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付所得税ヲ徴收シタルトキハ速ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ其ノ所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

國債利子支拂ノ取扱銀行ニ於テ國債ノ利子ニ付所得税ヲ徴收シタルトキハ大藏大臣ノ命令ニ依リ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

明治三十二年四月大藏省令第十七號　第二種所得税拂込書計算書ノ件

二種所得税拂込書計算書樣式

所得税法施行規則第三十六條第一項ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ計算書ハ第四號書式ニ調製スヘシ

金庫ニ於テ所得税法施行規則第三十六條ニ依リ所得税金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ第三號書式ノ通知書ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ其ノ計算書アルモノハ通知書ニ添付シテ送付スヘシ

用紙適宜（縱五寸横四寸）ノモノ二號三號接續

第一號書式

所得税拂込書

何年度租税　第二種所得税　大藏省所管

「何」税務署

一金「何程」

右拂込候也

明治「何」年「何」月「何」日

「何」府縣郡市區町村長　氏名印

「公共團體其ノ他之ニ準ス」

「何」金庫

金庫主任者ノ印

第二號書式

領収證書

何年度租税　第二種所得税　大藏省所管

拂込人　「何」府縣郡市區町村長「公共團體其ノ他之ニ準ス」　氏名

金庫取扱主任ノ印

一金「何程」

右領収候也

明治「何」年「何」月「何」日

「何」金庫印

金庫印

第三號書式

通知書

何年度租税　第二種所得税　大藏省所管

「何」税務署　拂込人　「何」府縣郡市區町村長「公共團體之ニ準ス」　氏名

一金「何程」

右領収濟ニ付通知候也

明治「何」年「何」月「何」日

「何」税務署長「氏名」宛

「何」金庫印

第四號書式

明治　年　月中

所得税徵收高計算表

公債種類	利子	年	月	日	何府縣郡市區町村其他公共團體若ハ組合長又ハ何會社

仕拂濟利子額					所得税ヲ徵收シタル利子額	所得税ヲ徵收セサル利子額	所得税金額	仕拂未濟利子額	摘要

所得額變更ニ因ル稅金過不足整理

施行規則

第三十八條　稅金ノ一部ヲ納付シタル後所得金額ノ變更ニ因リ所得稅金額ヲ減シタル場合ニ於テ既納ノ稅金カ變更シタル所得稅金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ還付シ不足スルトキハ其ノ不足額ヲ後納期ニ平分シテ徵收ス

第一二章　納稅地

第四十四條　第三種所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキ時ハ居所地ヲ以テ納稅地トス但住所地以外ニ在ル納稅者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムル事ヲ得此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

行政實例

一　納稅者納期中轉出ノ事實アル場合其ノ轉出カ納期開始十五日以後ナルトキハ該納期ノ經過ヲ俟チテ納稅ノ濟否ヲ確メ納稅濟ノ區分ヲ定メ轉出ノ取扱ヲ爲ス（四二、七、七主稅局通牒）

二　左ノ場合ニ於テハ甲地ヲ以テ納稅地トス（四四、七、一八主稅局通牒）

甲地

一　公私ノ職務ヲ有シ本人居ル

二　同上

三　一戸ヲ構ヘ家族ヲ置キ本人居ル

四　同上

五　營業場アリ本人居ル

六　同上

但シ一及四ノ場合ニ於テ納稅者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

乙地

一戸ヲ構ヘ家族ヲ置ク

本籍地ニシテ資產アレトモ一戸ヲ構ヘス

一戸ヲ構ヘ家族ヲ置ク

重ナル所得ヲ生スル營業場アリ

營業場アリ

一戸ヲ構ヘ家族ヲ置ク

一種所得

第一三章　申告事項及其ノ時期

第七條　第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ヲ以テ定ムル期間内ニ各事業年度ニ於ケル財產目錄・貸借對照表・損益計算

書及第四條ノ規定ニ依リ計算シタル所得ノ明細書ヲ添付シ政府ニ申告スヘシ但シ第二條ニ該當スル法人ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得ノ明細書ヲ添付スヘシ

施行規則

第三條　第一種所得ニ付納税義務アル法人ハ毎事業年度決算確定ノ日ヨリ七日以内ニ所轄税務署ニ所得税法第七條ノ申告ヲ爲スヘシ

株式會社又ハ株式合資會社ハ其ノ事業年度末日ノ現在ニ依リ株主又ハ社員ノ數ヲ併セテ申告スヘシ但シ會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ無記名式ト爲スコトヲ請求シタル株主ノ數ヲ附記スヘシ

第八條　第三種ノ所得ニ付納税義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

三種所得

施行規則

第四條　第三種ノ所得ニ付納税義務アル者ハ所得ノ種類及金額ヲ所轄税務署ニ申告スヘシ但シ俸給・給料・手當・歳費ニ付テハ其ノ收入年額ヲ併セテ申告スヘシ

所得税法第三條第六項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ其ノ所得ヲ區分シ同時ニ之ヲ申告スヘシ

納税管理人

第四十五條　納税義務者納税地ニ現住セサルトキハ其ノ所得税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メニ納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

施行規則

第四十三條　納税義務者納税管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納税地ノ税務署ニ申告スヘシ

納税地

同第三十九條　第三種ノ所得ニ付納税義務アル者納税地ノ税務署所轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納税地ヲ其ノ地ノ税務

納稅地變更
帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキ
逋稅

署ニ申告スヘシ

同 第四十條　納稅義務者住所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納メムトスルトキ又ハ所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅地ヲ定メ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ

同 第四十一條　納稅義務者納稅地ヲ變更シタルトキハ其ノ旨新納稅地ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

同 第四十二條　納稅義務者帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ旨稅務署ニ申告スヘシ

第一四章　罰則

第四十六條　所得金額ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ其ノ逋稅金高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ稅金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

行政實例

所得事項漏洩
刑法中ノ除外規定

一　自首ノ場合ニ申告所得金額相當ト認ムルモノニ限リ直ニ決定ノ上通知ヲ爲シ納期前ニ係ルモノハ相當納期ニ徵收ス（三二、一〇、四仙臺稅務管理局ニ回答）

二　自首ハ裁判所又ハ警察ノ如キ犯罪搜索ノ權能アル官廳ニ爲スモノナルモ當該官署ト豫メ交涉シ便宜ノ取扱ヲ爲スハ差支ナシ（三八、三、三一神戸稅務監督局ニ回答）

第四十七條　所得ノ調査又ハ審査ニ干與スル者其調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタル時ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノトス

行政實例

調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ本人ニ示スハ本條ノ範圍外ナリ（三二、九、二六名古屋稅務管理局ニ回答）

第四十七條ノ二　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書・第三十九第條二項・第四十條・第四十一條・第四十八條第二項・第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

參照法令

刑法

第三十八條（第三項）

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其ノ刑ヲ輕減スルコトヲ得

第三十九條（第二項）

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其ノ刑ヲ減輕ス

第四十一條　十四歲ニ滿タル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第四十八條（第二項）

二箇以上ノ罰金ハ各罪ニ付定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第六十三條　從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照ラシテ減輕ス

第六十六條　犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第一五章　稅法不施行地

第五十條　此ノ法律ハ小笠原島及伊豆七島ニ當分之ヲ施行セス

此ノ法律ハ大正七年分所得稅ヨリ之ヲ沖繩縣ニ施行ス

第三編　營業稅

第一編　課稅營業ノ範圍

營業稅法（明治二十九年三月法律第三十三號）

第一條　左ニ揭クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

營業ノ種類

一　物品販賣業
一　銀行業
一　保險業
一　無盡業
一　金錢貸付業
一　物品貸付業
一　製造業
一　運送業
一　倉庫業

一　運河業
一　棧橋業
一　船舶碇繫場業
一　貨物陸揚場業
一　鐵道業
一　請負業
一　印刷業
一　出版業
一　寫眞業
一　席貸業
一　旅人宿業
一　料理店業
一　周旋業
一　代理業

一　仲立業
一　問屋業
一　信託業

參照法令

商法

第四條　本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第二百六十三條　左ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ商行爲トス

一　利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動產、不動產若シハ有價證券ノ有償取得又ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行爲

二　他人ヨリ取得スヘキ動產又ハ有價證券ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有償取得ヲ目的トスル行爲

三　取引所ニ於テスル取引

四　手形其ノ他ノ商業證券ニ關スル行爲

第二百六十四條　左ニ掲ケタル行爲ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス但專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス

一　賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有償取得若クハ賃借又ハ其取得若クハ賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行爲

二　他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行爲

三　電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲

四　運送ニ關スル行爲

五　作業又ハ勞務ノ請負

六　出版、印刷又ハ撮影ニ關スル行爲

七　客ノ來集ヲ目的トスル場所ノ取引

八　兩替其ノ他ノ銀行取引

九　保險

十　寄託ノ引受

十一　仲立又ハ取引ニ關スル行爲

十二　商行爲ノ代理ノ引受

第二百六十五條　商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ之ヲ商行爲トス

商人ノ行爲ハ其ノ營業ノ爲メニスルモノト推定ス

行政實例

海面ヲ埋立テ又ハ港灣ヲ浚渫シテ船舶碇繫場ヲ設ケ出入船舶ヨリ報酬ヲ受ク

ルモノハ課稅ノ範圍內トス（二九、一〇、一福岡縣ニ同答）

行政裁判例

一　營業稅ノ賦課ヲ受ケムトスル訴ハ受理スルノ限ニ在ラス（四十二年第千百三十九號同年十二月二十二日宣告）

二　營業稅ハ必ス營業本人ニ對シ賦課スルコトヲ要ス（四十三年第二百九十五號四十四年三月二十四日宣告）

物品販賣業

第二條　營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト看做ス

一　一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者

二　一定ノ製造場ヲ設ケス物品ヲ製造シテ販賣スル者

三　牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シテ之ヲ賣リ又ハ鷄卵・牛乳等ノ產物ヲ販賣スル者

四　魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

五　動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額二千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造區域內ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

一　行政實例

一　一定ノ店舗アルモノニシテ行商ヲ營ムトキハ其ノ賣上高ヲモ加算ス（二九、九、九主稅局通牒）

二　料理ノ仕出ノミヲ專業トスル者ハ物品販賣業トス（二九、九、一八愛媛縣ニ回答）

三　第二條第二項ノ營業モ店舗其ノ他ノ營業場ヲ有セサルモノハ包含セス（二九、一〇、一福岡縣ニ回答）

四　製造場ニ於テハ販賣セス別ニ店舗ヲ設ケ小賣ヲ爲スモノハ物品販賣業トス（同上）

五　賣藥請賣ハ物品販賣業ナリ（二九、二、九滋賀縣ニ回答）

六　茶園ヲ所有シ一定ノ製造場ナク茶葉ヲ摘採シテ工錢ヲ仕拂ヒ茶ヲ製造シテ販賣スル者ハ物品販賣業ナリ（二九、一二、一八農務局ニ回答）

七　天然氷營業ハ物品販賣業ナリ（二九、一二、一八北海道廳ニ回答）

八　貸座敷業ニハ課稅セサルモ飲食物ヲ販賣シ他ノ營業ニ該當スルモノニハ課稅ス（三〇、六、九主稅局通牒）

九　直輸出業者カ在外支店ヘ貨物ヲ輸送シ支店ニ於テ顧客ヲ待テ初メテ販賣スルモノノ如キハ內地ニ販賣店ノ設アルモ其ノ轉送行爲ニ對シ課稅セス（三一、五、九東京稅務管理局ニ回答）

一〇　藥劑師カ醫師ノ處方箋ニノミ依リ調劑販賣スルモノハ物品販賣業ニ非ス（三九、六、七名古屋稅務監督局ニ回答）

一一　新聞紙ノ販賣及其ノ取次行爲ニ對シ課稅セス（四三、三、二九主稅局通牒）

一二　官報販賣所ニハ課稅セス（四四、三、二九主稅局通牒）

一三　無記名證券ノ賣買ニシテ他ノ營業（仲立業ノ如キ）ニ該當セサルモノハ物品販賣業トス（四一、七、一五大藏省議決定）

一四　別ニ本店アル者カ船舶ヲ以テ販賣行爲ヲ爲ストキハ本店ノ賣上高ニ合算ス、本店ヲ有セス時ニ巡航スルコトアルモ主トシテ一定ノ場所ニテ販賣スル者ニハ課稅ス、船舶ヲ以テ巡航販賣スル者ニハ課稅セス（四三、五、九主稅局通牒）

一五　銀行業者カ營ム有價證券ノ買入販賣ハ銀行業ノ範圍內ニシテ物品販賣業ニ該當セス（四四、五、二會計檢査院ニ回答）

一六　自ラ蠶種ヲ製造シテ販賣スル者ニ對シテハ卸ト小賣トヲ問ハス又店舗ノ有無ニ拘ラス課稅セス（大正二、二、二七主稅局通牒）

一七　川崎富士紡績購買會ニ對シテハ營業稅ヲ課セサルヲ相當トス（大正三、四、二二神奈川縣ニ回答）

行政裁判例

米穀取引所ニ於ケル定期賣買ハ單ニ轉賣又ハ買戻ニ依リテ損益ヲ決算スルヲ通例トスルヲ以テ止ムヲ得ス現米ヲ引取リ商店ニ委託販賣スルモ初メヨリ販賣ノ意思ナキモノナレハ物品販賣業ニ非ス（四十一年第百七十七號四十四年二月二十日宣告）

金錢貸付業及物品貸付業

第三條　營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモノ亦同シ

運轉資本金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

行政實例

一　船舶ノ貸付ハ物品貸付業ナリ（二九、八大藏省議決定）

二　不動產貸付ハ物品貸付業ニ非ス（三四、二、一一京都稅務管理局ニ回答）

三　問屋又ハ倉庫業者ニシテ賣買當事者又ハ寄託主ノ爲メニ資金ヲ貸與シ立替金ヲ爲シテ一定ノ金利ヲ取得スルヲ營業トスル者ハ金錢貸付業ヲ兼營スルモノトシテ課稅ス但シ前金渡シ又ハ手附金ノ性質ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス（四四、七、一八主稅局通牒）

四　會員ヲ募集シテ一定ノ掛金ヲ爲サシメ之ヲ蓄積シ會員各自己ノ入札ニ依リ又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ會員ニ金融ヲ爲シ手數料及剩餘金ヲ取得スルヲ業トスルモノハ金錢貸付業ナリ（大正元、一〇、二五主稅局通牒）

五　瓦斯電氣供給者カ其ノ業務ノ便宜上需要者ニ對シ爲ス器械ノ貸付ハ製造業ノ範圍內ニシテ物品貸付業ニ非ス（大正二、三、二六會計檢査院ニ回答）

行政裁判例

一　金錢貸付業ノ營業場ハ特別ノ設備ヲ要セサレハ苟モ一定ノ場所ニ於テ引續キ金錢ノ貸付ヲ爲ス以上ハ營業場ナリ（三十九年第百七十號四十年六月十九日宣告）

二　金錢貸付業ハ別段ノ設備ヲ要セサレハ物品販賣業ノ營業場ニテ之ヲ兼營スルモノト認メ課稅シタルハ相當ナリ（三十七年第百六十一號四十年七

月五日宣告）

三　苟モ同一場所ニ於テ數次貸付ノ行爲ヲ爲ス以上ハ營業場ト認ムヘキモノナリ（三十九年第百三十九號四十年七月十日宣告）

四　住宅ノ一部ニ於テ金錢貸付ニ關スル取引ヲ爲ス以上ハ之ヲ營業場ト認ムヘク又從業者ヲ使用スルコトヲ要件トセス（四十年第二十一號四十一年二月二十七日宣告）

五　營業場トハ不斷公衆ノ自由ニ出入シテ營業上ノ取引ヲ爲ス場所ヲ謂フ金錢貸付等ヲ營ム者トハ親戚故舊ノ如キ特殊ノ事情アル者ニ限ラス汎ク公衆ニ對シ信用ヲ開始シ之ヲ繼續スル者ヲ謂フ（三十四年第七十二號三十四年十月十一日宣告）

六　一定ノ營業場ヲ有シ金錢貸付ノ行爲ヲ爲ス事實アル以上ハ營業稅ノ賦課ヲ拒ムコトヲ得ス（三十六年第四百八十一號三十七年五月十三日宣告）

七　親戚故舊小作人等特殊ノ關係ヲ有スル者ニ對シ偶金錢ヲ貸付クルモ之ヲ以テ營業稅ヲ課スヘキ營業ト認ムヘキモノニ非ス（三十七年第九百三十一號三十八年六月二十八日宣告）

八　金錢貸付業者カ貸付證書ノ書換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ書換カ舊契約ヲ消滅シテ新契約ヲ發生セシムルモノナルトキハ尙之ヲ新規貸付ト認ムヘキモノトス（大正三、三、二八宣告）

製造業

第四條　營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使用シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及物品ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額千圓未滿ノ者及職工勞役者ヲ通シテ三人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

行政實例

一　第四條第三項ハ資本金額五百圓（千圓）以上ト職工勞役者トヲ通シテ二人（三人）以上ヲ使用ノ兩條件ヲ要ス（二九、九、二三兵庫縣ニ回答）

二　製造場ニ於テ販賣セス別ニ店舗ヲ設ケテ卸賣ヲ爲ス行爲モ製造業ノ範圍內ナリ（二九、一〇、一福岡縣ニ回答）

三　乙地ノ製造場ニ於テ製造シタル物品ヲ甲地ノ本店ニ於テ販賣スルモノハ本支店營業場ニ重キヲ措カス營業ノ實體カ課稅ノ要件ヲ具備スルヤ否ニ依リ判斷スヘキモノトス（三〇、八、七東京稅務管理局ニ回答）

四　横濱市營瓦斯供給ハ課稅ノ範圍外ナリ但シ從來賦課セシ分ハ還付スルニ及ハス（三二、八、一八横濱稅務管理局ニ回答）

五　横濱居住ノ外國人ノ經營スル製茶輸出店カ高價ノ茶ト低價ノ茶トヲ混入シ之ニ藥品ヲ入レ精製スル行爲ハ製造ナリ（三二、一〇、三〇横濱稅務管理局ニ回答）

六　鑛業者ニ非サル者カ他ヨリ鑛物ヲ買入レ製錬スルヲ業トスルトキハ製造業トシテ課稅ス（四〇、四、一大藏省議決定）

七　鑛業權者カ自己ノ採鑛スル鑛業ト附隨ノ關係ナク別個ノ營業ト認メ得ヘキ製錬ヲ爲ストキハ課稅ス（四四、四、一大藏省議決定）

八　電氣ノ供給會社ニシテ製造カ不足ノ爲メ他ヨリ買入レ需要者ニ送電スルモ製造業ノ範圍内ニ於テ爲シ得ヘキ行爲ナリ（四四、二、一廣島稅務監督局ニ回答）

九　縣立水産試驗場附屬罐詰製造所ニ對シテハ課稅セス（三八、五、一丸龜稅務監督局ニ回答）

一〇　煙草製造作業ノ一部ヲ擔當スル場外作業ニハ課稅セス（三八、四、二八主稅局通牒）

一一　瓦斯電氣ヲ容器又ハ器械ニ依リテ包藏又ハ發作セシムル裝置ヲ有スルモノヲ店頭ニ於テ販賣スル者ノ如キハ物品販賣業トシテ課稅スヘキモ繼續的ニ電氣瓦斯ヲ需要者ニ送付スル者ノ如キハ第四條第二項ニ該當シ製造業トス（大正元、九、二〇主稅局議決定）

運送業

第五條ノ一　運賃又ハ手數料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ從業者三人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

行政實例

倉庫業者カ保管スル生繭ノ乾燥ヲ爲スコトハ倉庫業ノ範圍内ニ屬スルモノトス（大正三、一〇會計檢査院ニ回答）

行政裁判例

一　船渠業及製造業ハ二箇格別ノ營業ナリ（三十七年第十五號三十一年十二月二十五日宣告）

二　法第四條第三項ニ所謂職工勞役者ヲ通シテ二人以上使用セサルモノトハ製品ノ販賣ニ關スル營業場カ製造區域外ニ在ルトキハ物品ノ製造ニ付使用スル者ニ限ラス販賣ニ從事スル者ヲモ通シテ計算スルノ法意ナリ（大正三年第三十一號大正三、四、二三宣告）

鐵道業

倉庫業

印刷・出版・寫眞請負業

訴願裁決例

運送業ハ一定ノ店員其ノ他ノ營業場アルコトヲ要セス唯雇人二人（從業者三人）以上ヲ使用スルヲ以テ足ル（四一、七、八）

第五條ノ二　私設鐵道法・輕便鐵道又ハ軌道條例ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス

第六條　倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條　印刷業・出版業・寫眞業ニシテ從業者三人以上ヲ使用セサル者及請負業ニシテ請負金額一箇年二千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

出版業ニシテ新聞紙法ニ依ルモノニハ營業稅ヲ課セス

行政實例

一　大工、左官、石工、手傳人等他人ニ雇ハレ日當ヲ受クル者ハ課稅ノ範圍外ナリ（二九、五、二五奈良縣ニ回答）

二　請負業ノ如ク居宅ニ於テ取引スルモノト雖店舗若ハ營業場ト認ムヘキ設備アレハ課稅ス（三九、一一、六大阪稅務監督局ニ回答）

三　市ニ於テ胞衣ノ取除並火葬ノ業ヲ營ムモ課稅セス（四〇、五、二大阪稅務監督局ニ回答）

四　他人ノ衣類ヲ受ケテ生繭ノ乾燥ヲ業トスル者ニ對シテハ（勞力）請負業トシテ課稅ス（四二、三、一一大藏省議決定）

五　人畜ノ死體火葬ノ請負ニ課稅セス（四四、四、三仙臺稅務監督局ニ回答）

六　請負業ノ營業場ハ請負契約締結ノ本據トシテ廣ク契約ノ申込ヲ受クル場所ニ限リ其ノ他ノ場所ハ營業場ト看做サス（四四、七、一八主稅局通牒）

七　織物賃織業ハ請負業トシテ課稅ス（同上）

八　請負業ノ性質ヲ有スルモノニシテ稅法上ノ製造業其ノ他ノ業體ニ該當スルモノハ其ノ業體ニ依リ他ハ請負業トス（四四、七、一八主稅局通牒）

九　製板行爲ハ請負業ナリ（四四、一、二六主稅局通牒）

一〇　依賴人ヨリ原料ノ供給ヲ受ケ製作ノ賃錢ヲ得ルヲ專業トスル者ニ對シテハ請負業トシテ課稅ス（大正三、五、二三會計檢査院ニ回答）

席貸業

第八條　貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃貸價格百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

行政實例

一　貸座敷業ニハ營業稅ヲ課スノ限リニ非ス（三〇、六、七主稅局通牒）

但シ普通ノ集會ニ客室ヲ貸スモノハ此ノ限リニ在ラス

二　休茶屋、人力車立場ノ類ハ課稅ノ範圍外ナリ（二九、一〇、八福岡縣ニ回答）

三　引手茶屋ハ課稅外ナリ（三〇、八、七東京稅務管理局ニ回答）

四　劇場業者又ハ寄席業者カ劇場又ハ寄席ヲ其ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムル場合ハ課稅セサルモ目的以外ニ集會場トシテ貸付報酬ヲ受クルモノニシテ營業ト認ムヘキ場合ハ席貸業トシテ課稅ス（四四、七、一〇會計檢査院ニ回答）

旅人宿業

第九條　營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ從業者四人以上ヲ使用スル者トス但シ木賃宿ニハ營業稅ヲ課セス

行政裁判例

木賃宿トハ營業カ木賃方法ニ依ルモノニシテ普通貧民ヲ宿泊セシムルヲ目的トシ旅人宿ニ比シテ其ノ規模小ナルモノヲ云フ、所轄警察署カ木賃宿ト認定シ許可セシモノト雖其ノ實體ニシテ旅人宿ナル以上ハ營業稅ヲ課スルコトヲ得（四十年第四十九號四十一年二月二十日宣告三八、二、四訴願裁決例同シ）

料理店業・周旋・代

第十條ノ一　營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ從業者四人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス

行政實例

一　主トシテ客室ヲ設ケ飲食物ヲ販賣スル者ハ雇人三人（從業者四人）以下ノトキモ物品販賣業トシテ課稅セス（二九、八大藏省議決定）

二　蕎麥屋ニシテ客室ヲ設ケ販賣スルヲ主トスルモノハ料理店業トシ店頭ニ陳列販賣ヲ主トスルモノハ物品販賣業トス（二九、一〇、八福井縣ニ回答）

三　料理店業ニシテ前年六月迄雇人三人（從業者四人）以上ヲ使用シ其ノ後二人（三人）ニ減シ一月ニ於テモ依然二人（三人）ナルトキモ第十三條ノ届出ヲ要ス（三一、一〇、三丸龜稅務管理局ニ回答）

行政裁判例

營業場ニ於テ飲食物ノ料理ヲ爲サス來客ノ需ニ應シ藝妓ヲ招キ或ハ飲食物ヲ取寄セ遊興セシメ席料ヲ得ルヲ主タル目的トスルモノハ席貸業ニ該當ス（三十九年第六十四號四十一年二月二十日宣告）

第十條ノ二　營業稅ヲ課スヘキ周旋業・代理業・仲立業・問屋業・

理・仲立・問屋・信託業

信託業ハ一箇年報償金額二百圓以上ノ者トス

參照法令

商法

第三十六條　代理商トハ使用人ニ非スシテ一定ノ商人ノ爲ニ平常其ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ

第三百五條　仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百十三條　問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲ニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

行政實例

一　金錢ヲ交換シテ手數料ヲ受クル兩替店ハ課稅ノ範圍ニ入ラス（二九、五、二五奈良縣ニ回答）

二　魚市場又ハ諸問屋カ自己ノ名ヲ用ヰテ他人ノ計算ヲ以テスル行爲ハ仲買業ナリ（二九、一〇、一福岡縣ニ回答）

三　市場ニ於テ商取引ノ媒介ヲ爲ス者ハ仲立業ナリ（二九、一〇、八福井縣ニ回答）

四　移民取扱人ハ周旋業トシテ課稅スヘキモノトス（三五、九、六通商局ニ回答）

五　普通銀行カ手形ノ代理取立、代理貸付ヲ爲スカ如キハ信託業ニ非ス（四四、一、一六東京稅務監督局ニ回答）

六　信託業ハ他人ノ委託ニ依リ自己ノ名ヲ以テ他人ノ財産ヲ管理處分スルモノニシテ財産權ハ名義上受託者ニ歸スルモ管理處分ヨリ受クル利益ハ自ラ之ヲ享有スルヲ得サルモノトス（四四、一、一六大藏省議決定要領）

七　家屋ノ管理行爲ヲ目的トスル會社ニシテ其ノ營業カ他人ノ信託ニ依リ自己ノ名ヲ以テ他人ノ財産ヲ管理處分スルヲ業トセサルニ於テハ信託業ニ該當セスト雖家屋貸付ノ媒介家賃ノ取立ヲ爲スモノハ周旋業ニ該當ス（四四、五、三大阪稅務監督局ニ回答）

八　銀行業者カ日本勸業銀行ノ代理店トシテ勸業債券取扱ノ事務ヲ代理シテ一定ノ報酬ヲ受ケ又ハ日本銀行ノ代理店トシテ國債事務等ヲ處辨スルモノハ代理業トシテ課稅セス（四五、三、一三丸龜稅務監督局ニ回答）

九　家畜市場開設者ニ對スル課稅方ハ其ノ事務ノ實體ニ依リ一定シ難キモ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲ス者ヲ仲立業トシ代金ノ取立、物件ノ取次ヲ爲ス者ハ周旋業トス（大正三、二、四滋賀縣ニ回答）

一〇　家畜市場法第八條但書ニ該當ノモノノミナル場合ニモ周旋業トシテ課稅ス（大正三、七、八廣島稅務監督局ニ回答）

訴願裁判例

一　商法ノ問屋營業ハ仲買業ニ相當シ周旋業ト同一ニ非ス（四二、四、二〇）

二　問屋業ト物品販賣業ト岐ル點ハ委託者ノ計算ニ於テスルト否トニアリ（四二、四、二〇）

三　自己ノ住宅ノ一部ニ牛馬繫留所ヲ設ケ商品タル牛馬ヲ繫留シ且其ノ住宅ニ於テ臨時取引ヲ爲ストキハ之ヲ以テ仲立業ノ營業場ト認ムルヲ相當トス（四二、二、二一）

第二章　課稅外ノ營業

第十一條　左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス

一　政府ヨリ發行スル印紙・切手類ノ賣捌

二　自己ノ採掘又ハ採取シタル鑛物ノ販賣

三　度量衡ノ製作・修覆・販賣

行政實例

鑛業權者カ他人ヨリ買入レタル鑛物ヲ製煉スル場合ニ於ケル製煉ニ對シテハ課稅セス（四〇、六、二六農商務省ニ問答）

產業組合法　明治三十三年三月法律第三十四號

第六條　產業組合ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

保險業法　明治三十三年三月法律第六十九號

第九十一條　相互保險會社ニハ營業稅ヲ課セス

鑛業法　明治三十八年三月法律第四十號

第八十二條　鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス

漁業法　明治四十三年四月法律第五十八號

第四十五條　漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

郵便法　明治三十三年三月法律第五十四號

第七條（第二項）郵便專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

電信法　明治三十三年三月法律第五十九號

第十二條　電信若ハ電話專用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物

件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第三章　稅額算定法

第十二條　營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

稅率		
業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	卸賣（甲）萬分ノ八　（乙）萬分ノ十一 小賣（甲）萬分ノ二十　（乙）萬分ノ三十
銀行業	資本金額	千分ノ四、五
保險業	建物賃貸價格	千分ノ七十
金錢貸付業	從業者	一人毎ニ金二圓
物品貸付業	運轉資本金額	千分ノ六
	建物賃貸價格	千分ノ七十
	從業者	一人毎ニ金二圓
製造業	資本金額	千分ノ三
印刷業	建物賃貸價格	千分ノ七十
出版業	從業者	一人毎ニ金二圓
寫眞業	從業者ノ內職工勞役者	一人毎ニ金五十錢
運送業、運河業、棧橋業、船舶碇繫場業、貨物陸揚場業	資本金額	千分ノ五
	從業者	一人毎ニ金二圓
	從業者ノ內職工勞役者	一人毎ニ金五十錢
倉庫業	建物賃貸價格	千分ノ八十
	從業者	一人毎ニ金二圓
	從業者ノ內職工勞役者	一人毎ニ金五十錢
鐵道業	收入金額	千分ノ二十
	從業者	一人毎ニ金二圓
	從業者ノ內職工勞役者	一人毎ニ金五十錢
請負業	請負金額	千分ノ四
	從業者	一人毎ニ金二圓
	從業者ノ內職工勞役者	一人毎ニ金五十錢

席貸業	建物賃貸價格從業者	千分ノ百十五	一人毎ニ金二圓
料理店業	建物賃貸價格從業者	千分ノ百二十	一人毎ニ金二圓
旅人宿業	建物賃貸價格從業者	千分ノ七十五	一人毎ニ金二圓
周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業	報償金額從業者	千分ノ三十	一人毎ニ金二圓

物品販賣業中米・麥・豆・石油・肥料・煙草・薪炭ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣・小賣共ニ甲ノ稅率ヲ適用シ繭・白絹絲・白絹布・白麻絲・白麻布紙・麥稗眞田・經木眞田・花莚・砂糖・麥粉・燐寸・銅鋼鐵地ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣ニ在リテハ甲・小賣ニ在リテハ乙ノ稅率ヲ適用シ其ノ他ノ物品ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣・小賣共ニ乙ノ稅率ヲ適用ス

數種兼業ノ課稅

行政實例

一　課稅標準ニシテ圓位未滿ノ端數ハ申告ヲ是認スル場合ノ外之ヲ切捨ツルコト（四二、七、七主稅局通牒）

二　卸賣トハ同業者ニ賣渡若ハ製造原料トシテ賣渡シタルモノ及競爭契約ニ依リ賣渡シタルモノヲ謂フ（四三、三、五主稅局通牒）

三　製造用ノ燃料ノ如キハ製造ノ元資ニシテ生產計算上ニ於テハ原料ト殆ト同視セラルルモノナレハ原料ニ準シ卸賣トシテ取扱フヘキモノトス

四　汽船汽車其他大企業者ニ賣渡ス燃料、鑛山ニ賣渡ス杭木、金物類ニシテ競爭契約ニ依リ賣渡シタルモノト其ノ數量及價格ニ於テ類似スルモノハ之ヲ卸賣トシテ取扱フコト（四四、七、一八主稅局通牒）

第十四條　同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

行例實例

一　課稅標準ヲ共通トシテ屆出テタルモノ一種ノ營業行爲ヲ全ク爲ササルニ

一　於テハ後日共通トシテ課稅セサリシ標準ニ對シテモ追徵課稅ス（三三、三、六神戶稅務管理局ニ回答）

二　課稅標準共通ノ有無ハ每年一月中ニ於ケル狀態ニ依ル此ノ場合ニ於テ前年ノ數ト異ナルトキハ其ノ一月中ノ狀態ニ應シ前年額ヲ按分シテ共通使用ノ部分ヲ定ム按分端數ヲ生スルトキハ端數ノ多キ方ヲ一人トシテ計算ス（三五、六、二一主稅局通牒）

行政裁判例

銀行一般ノ業務及倉庫業ヲ營ム株式會社ノ資本金額建物賃貸價格竝ニ從業者ヲ共通使用スルトキハ第十四條但書ニ依リ課稅標準ヲ計算ス（三十七年第千六十三號三十八年十月十六日宣告）

營業稅法施行規則

大正三年十月　勅令第二百二十九號

第三條　同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業場同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類及各店舗其ノ他ノ營業場每ニ區分シテ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算ス但シ課稅標準トナルヘキモノ數種ノ營業ニ共通スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業ニ付稅率等シキトキハ其ノ主タル營業ニ付

店舗每ニ

其ノ課稅標準ヲ計算ス

前項但書ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ計算シタル營業ヲ廢止シタルトキハ其ノ翌月ヨリ前項但書ノ規定ニ準シ課稅標準ヲ他ノ營業ニ付計算シ月割ヲ以テ稅金ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ第一項但書ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ計算シタル營業ヲ繼續シ又ハ其ノ營業ヲ繼續シタルモノト認ムヘキ事實アル場合ニ於テ後ノ營業者ヨリ徵收スヘキ營業稅ニ付之ヲ準用ス

同

第四條　同一人ニシテ數個ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業場每ニ營業稅法第十二條ノ標準ヲ計算ス但シ數個ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ共通スル課稅標準ハ主タル店舗其ノ他ノ營業場ノ課稅標準ニ之ヲ計算ス

第十五條　物品販賣業・請負業・席貸業・旅人宿業・料理店業・周

課稅スル營業ノ種類及合算ノ場合

旋業・代理業・仲立業・問屋業・信託業ハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス

前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキハ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス但シ內國ト外國トニ渉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルモノニシテ資本ヲ區分セサルモノハ內國ニ於ケル課稅標準ヲ見積リ主タル店舗其ノ他ノ營業場ノ內國ニ在ルトキハ合算シテ之ヲ課シ內國ニ在ラサルトキハ各別ニ之ヲ課ス

行政實例

一　鐵道業ニ對シテハ各營業場ノ課稅標準ヲ合算課稅ス（三六、七大藏省議決定）

二　資本ノ區分ハ同一業體ニ付テモ之ヲ認メサル可ラサルモ其ノ區分ノ有無ハ事實ニ依リ判定スヘキモノトス（四〇、二、一五大藏省議決定）

三　（土木）請負業ノ如ク各地ニ於テ出張所又ハ事務所ヲ設ケ營業スルモノハ其ノ營業場毎ニ（出張所又ハ事務所）ニ課スルコト但シ出張所又ハ事務所ニシテ工事ニ關スル事務ヲノミ爲スモノハ此ノ限ニ在ラス（四二、七、七主稅局通牒）

行政裁判例

一　鐵道工事ニ關スル作業ノミヲ請負フモ之ヲ（土木）請負業ト云フヘク其ノ業務ノ爲メニ設ケタル各事務所ハ孰レモ營業場ト云フ事ヲ得ヘシ從テ第十五條ニ依リ營業場毎ニ課稅シタルハ相當ナリ（三十七年第五百二十五號同年四月十二日宣告）

二　會社本店ノ處ニ營業所ヲ有シ各營業場毎ニ資本ヲ區分シタルトキハ各營業場毎ニ課稅ス

工場ト營業所トハ自ラ異ナルカ故ニ會社カ本店ノ外ニ工場ヲ有シタリトテ直ニ本店ノ外ニ營業所ヲ有スルモノト斷定スルコトヲ得ス

資本ノ區分トハ會社內部ノミナラス外部ニ對シテモ區分アルコトヲ要ス（四十一年第百九十一號四十二年七月七日宣告）

三　收入金額ニ對シ一定ノ手數料ヲ受クルノミニシテ資本ヲ使用スルモノニ非サルモノハ第十五條ノ所謂店舗又ハ營業場ニ該當セス（四十一年第百八十九號四十二年四月三十日宣告）

本法施行地ノ內外ニ店舗アル場合

第四十條　第十五條第二項但書ノ規定ハ此ノ法律施行地ト此ノ法律ヲ施行セサルトニ涉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アル場合ニ之ヲ準用ス

施行規則

第五條　營業稅法第十五條ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課スヘキ場合ニ於テハ各店舗其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算ス

課稅標準ノ計算

第十六條　第十三條ニ依リ屆出ツヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一　賣上金・收入金・請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル

二　資本金・運轉資本金及建物賃貸價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル

三　從業者ハ前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均ニ依ル但シ一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ一人トス

資本金額及運轉資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　製造業ノ資本金額カ前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上增加シタルトキハ其ノ增加額ハ二年間之ヲ課稅標準ヨリ控除ス但シ二年繼續シテ資本金額ヲ增加シタル場合ニ於テ前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上增加シタルトキハ其ノ年ニ限リ前前年ニ對スル增加額ヲ控除ス

行政實例

一　法人カ匿名組合ニ爲シタル出資ハ資本總額ヨリ控除スヘキモノニ非ス（大正二、三、三一會計檢査院ニ回答）

二　勸工場ニ於テ營業シ本店ヲ有スルモノハ其ノ賣上金額ヲ本店ノ分ニ合算ス（二九、一〇、一福岡縣ニ回答）

三　取引所仲買人ニ對シテハ手數料ヲ除ク外仲買人ノ收得卽報償トシテ取得スル金額ニ對シ課稅ス（三〇、一一、二五主稅局通牒）

四　鐵道業ノ收入金額ハ鐵道業ニ依リ直接收入ニ係ルモノニ限ル（三六、四、四札幌稅務監督局ニ回答）

五　鐵道收入中左記種目ノモノハ大體ニ於テ課稅標準ニ算入スヘキモノトス（三八、六、九主稅局通牒）

一　客車收入、貨車收入、貨物保管料、貨物集配料、入場切符料

二　客貨車使用料、車輛通過料、停車場割合費、停車場使用料（停車場割合費ト同性質ノモノト認メサルモノ）貨車留置料、倉庫使用料、器具器械貸渡料

六　私設鐵道會社ニシテ隨意契約ニ依リ製鐵所々屬ノ線路ニ於テ同所ノ物品ヲ運搬スル爲メ製鐵所ヘノ貨車貸上料ハ收入金ニ算入ス（三九、五、九熊本稅務監督局ニ回答）

七　請負業ノ請負金額ハ前年中收入及收入スヘキ權利ノ確定シタル金額ニ依ル（四二、二、二七主稅局通牒）

八　前年中個人營業ヲ法人組織ニ變更シタルモノニ付其ノ翌年分ノ資本金額ハ個人營業ノ期間ハ其ノ資本金額ヲ以テシ法人成立後ハ法人所屬金額ヲ以テ之ヲ併算平均ス（三三、三、三〇會計檢査院ニ回答）

九　仲立仲買業者ニシテ歩戻金ト唱ヘ荷主ニ手數料ノ割戻ヲ爲スモノハ報償金額ニ加算セス（四三、五、二〇會計檢査院ニ回答）

一〇　酒類釀造業運轉資本ハ造石稅納付後ハ普通原價ヲ要シタルト同樣之ヲ計算スルコト（四二、七、八主稅局通牒）

一一　酒類醬油釀造業者ノ運轉資本ニハ未納造石稅ニ相當スル金額ハ之ヲ算入セス

一二　醬油釀造業者ノ資本金計算中流動資本ハ前年度ヨリ持越シタル諸味及精製醬油並同持越原料品價格ヲ計算ス（四四、五、一五主稅局通牒）

一三　代辨業（代理業）者ニシテ運送業ヲ代理シ運送業者ヨリ一定ノ報酬ヲ受クルモノカ乘船客ノ紹介ヲ爲ス仲次人ニ對シ一定ノ歩合金ヲ仕拂フモ報償金額中ヨリ控除セス（四三、五、二〇會計檢査院ニ回答）

一四　出版業者ノ資本金額ニハ出版ニ要スル用紙、印刷料、製本費ノ外原稿料、校閲料及筆寫等ノ諸費、挿入スル圖畫、寫眞並ニ表紙裝釘、裝帙、意匠圖案ノ諸費、著作ニ關スル諸費、出版引受ニ關スル諸費、著作權讓受價格及紙型製作費、印稅（著作者ニ仕拂フモノ）ヲ計算ス（四四、一、一六東京稅務監督局ニ回答）

一五　穀物搗碎ヲ請負トスルモノノ糠、碎米代等ハ請負金額ニ計算ス（大正二、三、三一會計檢査院ニ回答）

一六　家畜市場法第八條但書ニ依リ市場開設者カ家畜及代金ノ授受ニ與ラス當事者直接ニ授受シタル場合ノ賣買交換手數料ハ周旋業ノ報償金中ニ算入

ス（大正三、七、八廣島稅務監督局ニ回答）

行政裁判例

保險會社ノ收支ハ必ス當該年度內ニ決算スヘキモノナレハ或一部收入カ未決算ナルノ故ヲ以テ之ニ對シ課稅ヲ免ルルコトヲ得ス（四十三年第百七十五號四十三年二月八日宣告）

訴願裁決例

一　流動資本ニシテ前年中ニ於ケル各月末ノ資本金額ヲ直接ニ調査スルコト不能ナルトキハ前年中ノ月割平均額ヲ以テ算定ノ資料ニ供スルモ違法ニ非ス（三七、九、一四）

二　稅法ニ營業場外ニ於ケル賣上金額ヲ除算スヘキ規定ナキヲ以テ行商ニ係ル分ヲ併算セルハ相當ナリ（四三、二、二一）

合名・合資會社ノ資本金額

施行規則

第六條　合名會社又ハ合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル出資金額・各種ノ積立金額其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス積立金ノ性質ヲ有スル資產金額及借入金アルトキハ其ノ出資金額ヲ超過スル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

行政實例

一　銀行預金ハ借入金ニ包含ス（四四、三、二五主稅局通牒）

二　借入金ト雖事實資本充當ノ爲メニスルモノニアラサレハ借入金トシテ計算セス（四五、三、一三長野稅務監督局ニ回答）

三　合名會社ノ課稅標準資本金額中ニハ勞務及信用ニ依ル出資ヲ算入セス（四四、七、五廣島稅務監督局ニ回答）

行政裁判例

營業者ノ借入金償還及賣掛代金ヲ資本ニ計算スルハ正當ニ非ス（四十二年第六號同年七月九日宣告）

株式會社ノ資本金額

同第七條　株式會社又ハ株式合資會社ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル拂込株式金額・出資金額・各種ノ積立金額其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス積立金ノ性質ヲ有スル資產金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金及保險支拂備金ハ之ヲ除算ス

參照法令

保險業法

第九十五條　保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

同施行規則

第二十三條　保險會社ハ事業年度ノ終ニ於テ支拂備金トシテ左ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

一　保險金額、拂戻金又ハ保險契約ニ依ル配當金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ其支拂ヲ爲ササルモノアルトキハ其ノ金額

二　既ニ生シタル事由ノ爲メニ保險金額、拂戻金又ハ保險契約ニ因ル配當金ノ支拂ヲ爲スヘキコトアリト認ムルトキハ其ノ支拂ヲ爲スニ相當ナル金額

三　保險金額、拂戻金又ハ保險契約ニ因ル配當金ニ關シ訴訟繫屬中ノモノアルトキハ其ノ金額

第三十二條ノ規定ハ損害保險契約ヲ再保險ニ付シタル場合ニ於ケル支拂備金ノ積立ニ之ヲ準用ス

行政實例

一　株式會社ノ積立及繰越金ハ翌事業年度ノ最初ノ月ヨリ資本金額ニ加算スヘキモノトス（四四、三、三主稅局通牒）

二　株式會社カ增資ヲ爲シ額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於ケル超過金額ハ其ノ承諾前會社ニ於テ實際超過額ノ拂込ヲ受ケタル日ヨリ直ニ算入ス（四三、三、三〇會計檢査院ニ回答）

行政裁判例

一　船渠竝製造業ヲ兼營スル株式會社カ資本金額及其ノ使用ノ區分ヲ爲ササルトキハ施行規則第五條（第七條）ニ依リ標準ヲ算定スヘキモノトス（三十七年第十五號三十八年十二月二十五日宣告）

二　築港株式會社カ公用船舶貨物通過料ノ前拂ニ相當スル補助金ヲ受領シタル後之ヲ補助金ノ名稱ニテ積立ツルモ積立金ノ性質ヲ有スル資產金額トス（三十八年第三百八十六號四十年十月十八日宣告）

三　株式會社ノ資本減少ハ決議ノミニ止マラス既ニ之カ實行アルコトヲ要ス（四十一年第百六十八號四十二年六月十一日宣告）

四　保險會社カ保險責任準備トシテ保險料ノ內ヨリ積立ツル金額ニ對シテハ課稅スルコトヲ得ス

保險責任準備金以外ノ配當準備金ニ對シテハ課稅スルモ違法ニ非ス

保險支拂備金ハ利益配當支拂備金ニ該當セス（四十二年第百九十七號同年五月十九日宣告）

會社カ課稅營業ト其ノ他トヲ兼營スルトキノ資本金分別方

同第八條　會社ニ於テ資本金額ヲ課稅標準ト爲ス營業ト之ヲ課稅標準ト爲ササル營業又ハ營業稅法第一條ニ掲ケサル營業トヲ兼營スルトキハ前二條ノ規定ニ依リ計算シタル資本金額ヨリ其ノ兼營スル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額トス

行政裁判例

施行規則第七條ノ二（第八條）ニ依リ營業稅法第一條ニ掲ケサル營業ニ對スル資本金額トシテ控除スヘキ見積資本金額ハ同第五條（第六條）ニ依リテ總資本金額ニ計算シタルモノト同一種目ヨリ成ルヘキモノトス

非課稅營業ニ係ル分ノ資產額ニ對スル割合ヲ求メ施行規則第五條第六條ニ依リ算定シタル資本金額ニ對シテ之ト同一ノ割合ヲ占ムル金額ヲ非課稅營業ニ係ル見積資本金額ト爲シタルハ相當ナリ（大正元年第二百三十八號大正二年二月十七日宣告）

會社ニ繰越缺損アル場合ノ資本計算

同第九條　會社ノ資本金額計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金額アルトキハ其ノ缺損事實ノ確實ナルコトヲ證明シタルモノニ限リ資本金額ヨリ之ヲ控除ス

前項繰越缺損金額ハ前年中各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

個人ノ資本金額

同第十條　個人ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス但シ銀行業ニ在リテハ第六條及前條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地・家屋・築造物・船舶・器械器具等ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ見積時價ニ依ル

製造業ノ增加資本控除方

同第十一條　營業稅法第十七條ノ規定ニ依リ製造業ノ課稅標準ヨリ控除スヘキ增加資本金額ハ前五條ノ規定ニ依リ計算シタル

金錢及物品貸付業ノ資本金額

金額ニ依リ之ヲ算出ス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル增加額カ其ノ翌年ニ於テ五分ノ一未滿ニ減シタル場合ニ於テハ其ノ前々年ニ對スル增加額ハ之ヲ控除ス

同

第十二條　會社タルト個人タルトヲ問ハス金錢貸付業又ハ物品貸付業ノ課稅標準ト爲スヘキ運轉資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル貸付及貸付クヘキ金額又ハ貸付及貸付クヘキ物品ノ見積價格トシ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

行政實例

法人タル金錢貸付業ノ資本金計算ハ各場合ニ依リ貸付ニ供スヘキモノニ非サル事實明ナル金額アルトキハ之ヲ控除シテ定ム（四五、六、二四鹿兒島稅務監督局ニ回答）

建物賃貸價格

第十八條　課稅標準ト爲スヘキ建物賃貸價格ハ貸主カ公課修繕費其ノ他土地又ハ建物ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ店舗其ノ他營業用ノ土地建物ヲ賃貸スル場合ニ於テ賃

主ノ取得スヘキ金額ノ前年中ノ平均額ニ依リ之ヲ算定ス

同一區域內ニ在ル土地建物ト雖直接又ハ間接ニ營業ニ使用セサルモノハ賃貸價格ニ計算セス

行政實例

一　營業者カ自己所用外ノ分卽二階等ヲ他人ニ使用セシムルトキハ右部分ノ賃貸價格ヲ控除スルモノトス（二九、九、三靑森縣ニ回答）

二　會社ノ賃貸價格算定ニ付時價ヲ調査スル必要アルトキハ會社報告ノ價格如何ニ拘ラス相當時價ヲ以テ計算スルモ妨ナシ（三六、四、二〇金澤稅務監督局ニ回答）

三　船渠ナル設備其ノモノノ價格ハ賃貸價格中ニ計算セス（四四、五、九大阪稅務監督局ニ回答）

四　水力電氣又ハ普通水車ノ水路、瓦斯線、電氣線、支柱敷地等ニシテ營業場ト同一區域內ニ存在セサルモノノ價格又ハ借料ハ之ヲ賃貸價格ニ計算セス（四四、七、一八主稅局通牒）

五　借家ノ場合ニ於テ借料中ニ水道使用料ヲ含ムトキハ之ヲ控除シテ賃貸價格ヲ定ム（同上）

六　借家ノ場合ニ於テ疊建具ノ全部カ借主ノ所有ナルトキハ借主カ貸主ニ支拂フヘキ賃貸料ノ外ニ疊建具ニ相當スル賃貸料ヲ見積リ之ヲ賃貸價格ニ計算スルコト（同上）

行政裁判例

原告ノ使用スル煙突ハ單ニ瓦斯燃燒又ハ蒸氣機關ト連結スルニ止マラス之ヲ包含ス建物トモ約一間乃至二間ノ煙道ヲ以テ連結スルコト明瞭ナルヲ以テ之ヲ建物ノ一部分ト認ムルヲ相當トス又瓦斯タンクハ製造シタル瓦斯ヲ貯藏スル爲メノ設備ニシテ通常有形物ヲ貯藏スル建物ナル倉庫ト其ノ性質上區別スヘキ理由ナシ（大正二年第五十號大正二年十二月十三日宣告）

施行規則

第十三條　課稅標準ト爲スヘキ建物賃貸價格ハ直接又ハ間接ニ營業ニ使用スル土地家屋其ノ他ノ築造物ニ付之ヲ計算ス但シ店舗其ノ他ノ營業場ノ區域外ニ在ルモノハ直接營業ニ使用スルモノニ限ル

營業用ノ土地・家屋其ノ他ノ築造物ハ店舗其ノ他ノ營業場ト區劃スルモ敷地ノ接續スルトキ又ハ使用上接續ト認ムヘキ事實アルトキハ同一區域內ニ在ルモノト看做ス

同第十四條　課稅標準ト爲スヘキ建物賃貸價格ハ家屋其ノ他ノ築造物ノ使用ニ必要ナル雜作アルモノトシテ計算シタルモノニ依ル

第十九條　名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ヲ除ク外十五歲未滿ノ者及營業者ノ家族ヲ除ク

施行規則

第十五條　從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否トヲ問ハス又ハ使用ノ常時タルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算ス但シ營業主ヲ除クノ外十五歲未滿ノ者及營業主ト同一戶籍內ニアル者ハ此ノ限ニ在ラス

行政實例

一　酒造業ノ杜氏ハ從業者トシ其ノ他ノ勞役者ハ職工勞役者トス（二九、一〇、一福岡縣ニ同答）

二　菓子煙草ノ出賣子モ從業者トス（二九、九、九主稅局通牒）

三　會社ノ支店ニ於ケル者ハ該社ノ代表者ナリト雖支店ノ業務ニ從事セサルモノハ算入セス直接支店ノ業務ニ從事スルモノノミヲ計算ス（三二、二、六主稅局通牒）

四　合名會社ニ於テ定款又ハ總會ノ決議ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ他ノ社員ハ直接營業ニ從事セサル限リ算入セス株式會社ノ取締役ハ專務ト否トヲ問ハス從業者中ニ計算ス（三五、三、一四會計檢査院ニ同答）

五　民法ノ規定ニ依ル組合ノ營業ニ付テハ直接營業ノ執行ニ任セサル組合員ハ從業者ニ計算セス（三八、五、一長野稅務監督局ニ同答）

六　法第二條第二項ニ依リ看做サレタル物品販賣業ノ直接販賣ニ從事セサル從業者モ從業者トシテ計算ス（四二、七、七主稅局通牒）

七　出版業者カ商品運搬ノミ使用スル勞働者ハ之ヲ勞役者トシテ計算ス（四四、二、一三東京稅務監督局ニ同答）

八　營業者ノ家族ニ入籍セサル妻又ハ養子ハ之ヲ從業者ニ計算セス（四四、七、一八主稅局通牒）

一錢未滿ノ課稅標準及稅額計算法

九　會社ノ炊事洗濯等ニ從事スル者及車夫ハ直接營業ニ從事スルモノニ非ス（大正二（六、二五廣島稅務監督局ニ同答）

行政裁判例

從業者トハ營業主ヲ始メ直接營業ニ從事スル者ヲ謂フ（三十四年第七十二號同年十月十一日宣告）

行政實例

明治四十年三月法律第三十一號國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル件

第一條　國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ國稅ノ課稅標準ニ付テモ亦同シ

同第二條　法令ノ規定又ハ行政上ノ處分ニ依リ分納ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ分納額ニ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ其ノ端數ハ最初ノ分納額ニ合算ス

同第四條　國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ其ノ全額一錢未滿ノモノハ之ヲ五厘トシテ計算ス（第二項略）

行政實例

法律第二十二號ハ各課稅標準毎ニ算出シタル稅額ニ適用スルモノトス（三五、

四、五鹿兒島稅務監督局ニ回答）

第四章　申告事項及其ノ時期

第十三條　納稅義務アル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ營業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ但シ第二十一條ノ期間內ニ在ル營業者及他ノ法令ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受クル營業者ニ付テモ亦同シ

新規　新ニ開業シタル者ハ其ノ際前條ノ申告ヲ爲スヘシ

廢業　第十三條ノ二　納稅義務アル營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ申告スヘシ

施行規則

第一條　營業者ノ店舗其ノ他ノ營業場所在地ヲ管轄スル稅務署ヲ以テ營業稅ノ所轄稅務署トス但營業稅法第十五條第二項ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課スヘキモノニ付テハ主タル店舗其ノ他ノ營業場所在地ヲ管轄スル稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス

同第二條　營業稅法第十三條第一項ノ申告ハ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ

左ニ掲クル者ハ開業後十日內ニ所轄稅務署ニ營業稅法第十三條第二項ノ申告ヲ爲スヘシ

一　新ニ營業稅法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二　營業稅法第十五條ノ規定ニ依リ店舗其ノ他ノ營業場ニ付各別ニ營業稅ヲ課スヘキ者ニシテ新ニ店舗其ノ他ノ營業場ヲ增設スル者

三　新ニ營業稅法第一條ノ營業ノ種類ヲ增加スル者

同第十九條　營業者廢業シタルトキハ十日內ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

行政裁判例

法第十三條ニ依ル届出ハ當該官廳カ決定ノ資料ニ供セラルルニ過キサルカ故ニ廢業ノ届出カ直ニ當該官廳ノ決定權ヲ拘束スヘキ理由ナシ（大正二年第百

營業繼續

同 第六條　相續・讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ繼續後十日內ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

住所氏名及營業場ノ變更

同 第十七條　營業者住所・氏名若ハ名稱ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日內ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ他稅務署所轄內ニ移轉シタルトキハ移轉先ノ稅務署ニ申告スヘシ

國ノ內外ニ店舗アル者ノ店舗增設

同 第十八條　營業稅法第十五條第二項ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課スヘキ營業ニ付店舗其ノ他ノ營業場ヲ增設シタル者ハ其ノ增設後十日內ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

納稅管理人

同 第五十五條　營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ在ラサル場合ニ於テハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

稅務署ノ基本調査

第二十六條ノ二　稅務署長ハ每年納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ課稅標準ヲ調査シ其ノ調査書ヲ營業稅調査委員會ニ送付スヘシ

調査委員會ノ區域

第二十六條ノ三　各稅務署所轄內ニ營業稅調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄內ニ在ル市又ハ北海道・沖繩縣ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員ノ定數

調査委員會ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ增減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第五章　營業稅調査委員會ノ調査

大正三年十月大藏省令第二十一號　施行規則

調査委員會特設市區ノ件（略）

調査委員ノ定數

第二十三條　營業稅調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ增減スルコトヲ得

同選舉人
同選舉區域

第二十六條ノ四　調査委員ハ調査委員選舉人之ヲ選舉ス

第二十六條ノ五　調査委員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ調査委員ノ選舉區域ハ市町村及北海道・沖繩縣ノ區ノ區域ニ依ル但シ東京市及大阪市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

選舉人ノ資格及被選舉權

第二十六條ノ六　選舉區域內ニ於テ營業シ前年營業稅ヲ納メタル者ニシテ第十三條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員・補闕員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ニ記載シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　無能力者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四　六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者

五　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六　第三十四條ノ二ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者

營業繼續ノ場合ニ於テハ前ノ營業者ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ命令ノ定ムル所ニ依リ後ノ營業者ノ納稅又ハ申告ト看做スヘシ

「營業者カ法人ナル場合ニ於テハ代表者ヲ定メ政府ニ申告スヘシ」

調査委員ニ當選シタル者又ハ第一項但書ニ該當スル者ハ法人ノ代表者タルコトヲ得ス

選舉人ノ

第二十六條ノ七　調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域內ニ於

定數

選擧人ノ選擧關係事項（二十六條ノ十二迄）

ケル前年營業稅ヲ納メタル者ニシテ第十三條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス

第二十六條ノ八　調査委員選擧人ノ選擧事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ執行シ調査委員ノ選擧事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第二十六條ノ九　稅務署長ハ調査委員ノ選擧期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選擧期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

施行規則

第二十四條　稅務署長ハ調査委員選擧人ノ選擧資格ヲ有スル者ノ氏名又ハ名稱營業名及營業稅ヲ課セラレタル店舗其ノ他ノ營業場所在ノ場所ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

選擧資格ヲ有スル者カ法人ナル場合ニ於テハ其ノ代表者ヲ併セテ通知スヘシ

同

第二十五條　調査委員選擧人ノ選擧ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ其ノ選擧資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第二十六條ノ十　選擧ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル但シ選擧區域ヲ異ニシ各別ニ營業稅ヲ納ムルトキハ選擧區域毎ニ一人トシテ計算ス

選擧人ハ自ラ投票所ニ至リ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ但シ前項但書ノ場合ニ於テハ代人ヲシテ投票セシムルコトヲ得

第二十六條ノ十一　選擧ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

施行規則

第二十六條　調査委員選擧人ノ選擧終了シタルトキハ市區町村

長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名又ハ名稱ヲ稅務署長ニ報告スヘシ」

第二十六條ノ十二　調査委員選擧人ノ選擧終了シタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ十三　稅務署長ハ選擧期日ヲ定メ少クトモ七日以前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補闕員ノ選擧ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選擧ニ關シテハ第二十六條ノ十及第二十六條ノ十一ノ規定ヲ準用ス但シ投票ニ記載スヘキ被選擧人ノ數ハ調査委員又ハ補闕員ノ定數ノ二分ノ一トシ一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ一人トシテ計算ス

施行規則

第二十七條　稅務署長調査委員選擧ノ期日ヲ公示シタルトキハ之ヲ調査委員選擧人ニ通知スヘシ

同第二十八條　調査委員ノ選擧ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選擧人二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

同第二十九條　調査委員及補闕員ノ選擧ニ於テ投票ニ記載シタル人員其ノ選擧スヘキ定數ニ超エタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第二十六條ノ十四　調査委員及補闕員ノ選擧終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

施行規則

第三十條　稅務署長當選シタル調査委員及補闕員ノ氏名又ハ名稱ヲ公示シタルトキハ之ヲ當選人ニ通知スヘシ

第二十六條ノ十五　一人ニシテ數選擧區ニ於テ調査委員又ハ補闕員ニ當選シタルトキハ當選シタル者ノ選擇スル所ニ依ル

施行規則

第三十一條　一人ニシテ數選擧區ニ於テ調査委員又ハ補闕員ニ當選シタル場合ニ於テハ當選通知ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ

同

第三十二條　法人ノ代表者個人トシテ調査委員ニ當選シ若ハ補充セラレタルトキ又ハ稅法第二十六條ノ六第一項但書ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ法人ハ更ニ代表者ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

選擇ヲ爲シ就職セサル旨ヲ當該稅務署ニ通知スヘシ

第二十六條ノ十六　調査委員又ハ補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

施行規則

第三十三條　調査委員又ハ補闕員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務署長ニ於テ正當ト認ムヘキ事故アルモノニ限ル

第二十六條ノ十七　調査委員及補闕員ノ任期ハ選擧ノ日ノ屬スル月ヨリ四年トス但シ其ノ選擧區域ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ任期ハ終了スルモノトス

第二十六條ノ十八　調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第二十六條ノ十九　調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ二十　補闕員ヨリ調査委員ト爲リタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

選擧區域ノ變更ニ依リ新ニ選擧セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選擧區域變更前ニ於ケル調査委員及補闕員ノ日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第二十六條ノ二十一　調査委員又ハ補闕員ニ選擧セラレタル者キ又ハ其ノ選擧區域內ニ於テ納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條ノ二十二　調査委員會ノ開會日數ハ三十日以內トシ

調査委員及補闕員ノ辭任

同任期

同改選期

調査委員ノ補充

補充調査委員ノ任期

調査委員又ハ補闕員ノ資格消滅

調査委員

地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

施行規則

第三十五條　調査委員會ノ開會日數ハ各調査委員會ノ區域內ニ於ケル前年決定ノ營業稅納稅人員數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

五千人以上ナルトキ　三十日以內
三千人以上ナルトキ　二十五日以內
千人以上ナルトキ　二十日以內
五百人以上ナルトキ　十五日以內
五百人未滿ナルトキ　十日以內

第二十六條ノ二十三　調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十六條ノ二十四　調査委員會ハ每年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ

施行規則

第三十四條　調査委員會ノ會長出席セサルトキハ便宜ノ方法ニ依リ其ノ代理者ヲ定ムヘシ

第二十六條ノ二十五　調査委員ハ定數ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條ノ二十六　調査委員ハ自己又ハ其ノ代表スル法人ノ營業ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十六條ノ二十九　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

施行規則

第三十六條　調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第二十六條ノ三十　調査委員ニハ手當及旅費ヲ支給ス

ノ手當及旅費

大正二年七月大藏省令第二十五號

租稅ニ關スル委員及織物鑑定人ノ手當旅費等支給方ノ件（所得稅ノ部一四三頁參照）

第六章　課稅標準ノ決定

普通ノ場合　調査委員會閉會後ニ於ケル場合　一定時期ニ調査委員會カ決議セサル場合　再議ニ付シタル場合

第二十六條　課稅標準ハ營業稅調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス調査委員會閉會後納稅義務アルコトヲ申立テタルトキハ政府其ノ課稅標準ヲ決定ス

第二十六條ノ二十七　五月三十一日迄ニ調査委員會成立セサルトキハ政府其ノ課稅標準ヲ決定ス

調査委員會開會ノ日ヨリ第二十六條ノ二十二ノ期間內ニ又ハ五月三十一日迄ニ調査結了セサルトキハ課稅標準調査未濟ノモノニ限リ政府其ノ課稅標準ヲ決定ス

第二十六條ノ二十八　政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ

決定通知

再調査ニ付シタル日ヨリ七日以內ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ課稅標準ヲ決定ス

第二十六第ノ三十一　政府ニ於テ課稅標準ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

施行規則

第三十七條　稅務署長ハ營業稅法第二十六條・第二十七條ノ二十七又ハ第二十六條ノ二十八ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第七章　稅金不徵收期間

第二十一條　新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲クル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ

其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業・保險業・倉庫業・製造業・印刷業・出版業・運送業・運河業・棧橋業・船舶碇繫場業・鐵道業

行政實例

一　會社ノ開業トハ實際業務ヲ開始シタル日トス（二九、一〇、二福岡縣ニ回答）

二　從來地方稅ヲ課シタル營業者カ一月中ニ課稅標準ヲ具備シタルトキハ翌年ヨリ課稅ス（三一、三、一〇大藏省議決定）

三　製茶製糸製氷ノ如キ季節營業ニシテ廢業シタル者再ヒ開業シタルトキハ法第二十一條第二項ニ依ル（三一、五、二七名古屋稅務管理局ニ回答）

四　甲銀行カ乙銀行ト同一場所內ニ開業シ乙銀行カ其ノ年中ニ閉鎖シタルトキモ甲銀行ハ第二十一條ニ依ルヘキモノトス（三二、五、二三金澤稅務管理局ニ回答）

五　三年間課稅セサル營業者ニシテ滿期後資本ヲ區分セスシテ支店若クハ出張所ヲ設クルモノニ對シテハ業務擴張トシテ翌年ヨリ課稅ス（四二、七、七主稅局通牒）

六　同一株式會社ニシテ倉庫業ト金錢貸付業トヲ同一場所ニ於テ新ニ開業シタルトキハ課稅標準ハ實地ノ狀況ニ應シ見積之ヲ計算ス（四二、七、九名古屋稅務監督局ニ回答）

七　軌道條例ニ依リ經營セシ業務ノ全部又ハ其ノ一部カ輕便鐵道法ニ依リ指定セラレタル場合ニ在リテハ輕便鐵道法ニ依ル運輸事業ヲ開始シタルトキヲ以テ變更カ全部ナルトキハ運送業ヲ廢シ鐵道業開始トナリ一部ナルトキハ運送業及鐵道業ノ兼營トナルヲ以テ此ノ場合ニ於テ未成線ノ大部分アルモ既ニ一部ニ付運送業ヲ開始シタル以上ハ鐵道業ノ新規開業トシ徵收猶豫ヲ爲ス（四五、七、二七名古屋稅務監督局ニ回答）

第二十五條　第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間內ニ在ルトキハ其ノ期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

行政實例

前ノ營業者二年ニシテ廢業シ爾後五ヶ月ヲ隔テテ後ノ營業者開業シ七ヶ月ヲ經過シタルトキハ三ヶ年ノ期間滿了ス（二九、九青森縣ニ回答）

行政裁判例

第二十五條ノ適用ヲ受クヘキ營業者ハ前ノ營業者カ營業稅ヲ課セラレサル場合ニ限ラス第二十二條ニ於テモ亦等シク此ノ利益ヲ受クルモノトス（四十年第五十三號同年十二月二十日宣告）

第八章　營業繼續

時ノ繼續セサルトキ

第二十二條　同一場所ニ於テ六箇月以內ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

行政實例

一　同一ノ營業トハ吳服店ノ跡ニ吳服店ヲ開ク如キ同種類ノ營業ヲ謂フ（二九、一〇、一靜岡縣ニ回答）

二　前ニ販賣業ヲ營ミ跡ニ製造業ヲ營ムモ製造業ハ第二十二條ニ該當セサルヲ以テ第二十一條ニ入ルヘキモノナリ

三　甲會社カ電線護謨防水式ノ製造其ノ他材料品ノ販賣ヲ營ム乙會社ノ電線營業ニ關スル權利義務ヲ讓受ケ乙會社ノ營業場ト同一場所ニ於テ主トシテ電線事業ヲ營ム外電氣器具ノ製造販賣ヲモ兼營スルトキハ第二十二條ニ該當ス（四四、三、二東京稅務監督局ニ回答）

四　銀行業ヲ營ム甲會社ト同一ノ營業場ニ於テ乙會社カ同一營業ヲ開始シタル後後日ニ至リ甲會社ハ其ノ營業ヲ廢止シ乙會社ハ甲會社ノ營業物件ヲ讓受ケ且使用人ノ一部ヲ引續使用シテ營業スルトキハ第二十二條ニ該當ス（同上）

行政裁判例

一　第二十二條ニ前ノ營業者トハ直近前者ヲ指スノミナラス開業後六ケ月以內ニ同一ノ場所ニ於テ同一ノ營業ヲ爲シタル凡テノモノヲ指稱ス（四十二年第百七十號四十三年第二百八十八號四十四年十月四日宣告）

二　會社ヲ合併シ其ノ營業ヲ繼續シタル會社ハ法第二十二條ニ依リ前ノ會社ニ依リテ納稅ノ義務ヲ有ス（三十七年第五十六號三十七年十二月二十八日宣告）

時ノ繼續スルトキ

第二十三條　營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

行政實例

一　甲者カ乙者ノ電燈供給區域ヲ讓受ケ新ニ原動力ヲ變更シ更ニ事業ヲ擴張

シタルモノ乙者ニ比シ多大ノ資本ヲ投入シ數年間收益ヲ得ヘキ見込ナキモノノ如キ或地域ニ於ケル電燈供給ノ權利ノミ讓受ケタルモノノ如キハ營業繼續ニアラス

二　甲乙兩銀行中乙銀行カ甲銀行ニ合併シタル場合ニ於テハ甲銀行ハ法第二十三條ニ依リテ銀行ノ營業ヲ繼續シタルモノトス（三七、一二、二二大藏省議決定）

三　數會社カ合併シタルトキ未納稅金ハ新會社ノ稅務署ニ於テ徵收ス（三九、一〇、二九東京稅務監督局ニ回答）

四　製造業ヲ營ム甲株式會社カ營業ノ一部ヲ乙ナル株式會社ニ他ノ一部ヲ丙ナル公共團體ニ讓渡シ解散シタルトキハ乙ニ對シテハ法第二十三條ニ依リ丙ニ讓渡シタル分ニ對シテハ法第二十四條ニ依リ甲ニ月割課稅ス（大正三、七、一六大阪稅務監督局ニ回答）

第九章　廢業ノ稅額

第二十四條　營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

行政實例

一　季節營業ニシテ他ノ季節中休業スルモ廢業トシテ取扱フノ眼ニアラス（二九、八、大藏省議決定）

二　廢業シタルトキ月割稅金ハ現住地ノ如何ニ拘ラス屆出稅務署ニ於テ取扱フ（三〇、一二、二一東京稅務管理局ニ回答）

三　廢業ハ其ノ業務ヲ全ク廢止シタルトキヲ以テ之ヲ認ムルハ勿論ナルモ該事實ヲ確然認ムルコト能ハサルトキハ屆書收受ノ日ヲ以テ處理ス（三〇、一二、二二東京稅務管理局ニ回答）

四　營業者他管內ニ轉出シタルトキハ轉入地ノ臺帳ニ登錄ノ日ヲ以テ轉出地ノ臺帳ヲ刪除ス（三〇、九、三東京稅務管理局ニ回答）

五　解散ヲ爲ササルモ事實廢業ト同一狀態ニ在ル法人ハ當分休業ニ非スシテ將來店舗再開ノ見込ナキトキハ廢業トシテ取扱フ（四五、七、一東京稅務監督局ニ回答）

六　製造場ヲ燒失シ一年ヲ經過スルモ仍再築セサルモノノ如キハ事實廢業ト認メ課稅セサルヲ穩當トス（四四、七、五廣島稅務監督局ニ回答）

第一〇章　納期

第二十條　營業稅ハ年額ヲ二分シ第一期ハ其ノ年六月一日ヨリ三十日限第二期ハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキハ未納ノ稅金ハ卽納トス

行政實例

會社合併ノ場合ニ在リテハ舊會社ニ對スル納稅額ヲ新會社ノ所轄稅務署ニ於テ合算シテ徵收スルモノトス（三九、一〇、二九東京稅務監督局ニ回答）

行政裁判例

一　稅法ハ第二十八條ノ一ノ決定ニ對スル外納稅告知ノ取消ヲ求ムルカ如キコトニ付テハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ認メス（三十九年第八十一號同年十月四日宣告）

二　會社解散ノ後ト雖納稅義務確定シタル國稅ハ之ヲ徵收スルコトヲ得（三十七年第九百十九號同年十月十日宣告）

三　納稅後誤謬ヲ發見セシ場合ニ於テハ納稅義務終了スルモ尙負擔スヘキ納稅義務消滅スルコトナシ（三十七年第十五號三十八年十二月二十五日宣告）

第一一章　異議ノ申立

審査請求

第二十七條　納稅義務者政府ノ通知シタル課稅標準ニ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

行政實例

異議申立期間內ニハ郵便遞送ノ日數ヲ算入セス（四二、一二、一七丸龜稅務監督局ニ回答）

行政裁判例

課稅標準ノ決定ヲ違法トスル取消ノ請求ハ特別法タル營業稅法ニ依ルヘシ（三十八年第二百九十八條三十九年六月十五日宣告）

施行規則

第三十八條　營業稅法第二十七條ノ規定ニ依リ審査ヲ求メムトスル者ハ理由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ所轄稅務署長ヲ經由シ稅

務監督局長ニ申出ツヘシ

第二十八條ノ一　前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

第二十六條ノ二十八ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス

施行規則

第五十二條　稅務監督局長ハ營業稅法第二十八條ノ一ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條ノ二　各稅務監督局所轄內ニ營業稅審査委員會ヲ置ク

審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ組織ス

收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ命シ調査委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ稅務監督局所轄內ノ調査委員之ヲ選擧ス

審査委員ノ選擧及審査委員會ノ會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員會ノ組織（施第四十五條迄）

第二十六條ノ十七・第二十六條ノ十八及第二十六條ノ二十ノ規定ハ審査委員ニ之ヲ準用ス

行政實例

審査委員ハ審査請求者ニ對シ質問又ハ實地調査ヲ爲スノ權限ナキモノトス（三六、八、二字都宮稅務監督局ニ回答）

施行規則

第三十九條　審査委員ノ選擧事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス

同

第四十條　審査委員ノ選擧ヲ執行セムトスルトキハ稅務監督局長ハ選擧期日ヲ定メ所轄內調査委員ノ氏名又ハ名稱ト共ニ之ヲ各調査委員ニ通知スヘシ

同

第四十一條　審査委員ノ選擧ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ自ラ投票所ニ至リ被選擧人一人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シ投票スヘシ

審査委員會ノ會議事項（施第五十二條迄）

投票ハ郵便ヲ以テ送付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間ノ終了スル迄ニ到達セサル投票ハ之ヲ無效トス

同第四十二條　審査委員ノ選擧ヲ執行スルトキハ稅務監督局長調査委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

同第四十三條　審査委員ノ選擧ニ於テハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

同第四十四條　審査委員ノ選擧終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ノ氏名又ハ名稱ヲ公示シ之ヲ當選人ニ通知スヘシ

同第四十五條　審査委員ハ稅務監督局所轄內ニ於テ調査委員ノ改選アル每ニ之ヲ改選ス但シ闕員ヲ生シタルトキハ臨時ニ補闕選擧ヲ執行スヘシ

同第四十六條　審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

同第四十七條　審査委員會ハ每年開會ノ初ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ

同第四十八條　審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席者ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

同第四十九條　審査委員會ノ會長出席セサルトキハ便宜ノ方法ニ依リ其ノ代理者ヲ定ムヘシ

同第五十條　審査委員ハ自己又ハ其ノ代表スル法人ノ營業ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十八條ノ三　收稅官吏ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

施行規則

第五十一條　稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

同第五十二條　審査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務監督局長ニ報告

審査決定通知
訴願訴訟ノ提起

スヘシ

第五十三條　稅務監督局長ハ營業稅法第二十八條ノ一ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條ノ四　營業者第二十八條ノ一ノ決定ニ對シ不足アルトキハ訴願又ハ訴訟ヲ爲スコトヲ得

行政實例

（課稅標準ノ算定）ニ對スル爭議ハ其ノ一部タルト全部タルトヲ問ハス審査ヲ經ヘキモノニシテ直ニ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス（三八、八、三〇主稅局通牒）

行政裁判例

一　課稅標準ノ決定通知ニ不服アル者ハ審査ヲ請求シタル後ニ非サレハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス（四十二年第百二十五號同年九月十五日宣告）

二　官吏カ長官ノ命ニ依リ職務上作成シタル文書ハ一私人ノ否認ニ依リ直ニ其效力ヲ失却セス（三十九年第百五十九號四十年七月七日宣告）

三　第二十八條ノ四ハ未タ營業稅ノ賦課ヲ受ケサルトキニ於テハ訴願又ハ訴訟ヲ爲シ得ルコトヲ規定シタルニ止リ（行政裁判法第二十七條ノ手續ニ依ラス）行政訴訟ヲ爲シ得ルコトヲ認メタルモノニアラス（大正元年第百五十九號同年九月二十六日宣告）

四　（課稅標準ノ算定）ニ對シ異議ヲ申出テ審査決定ヲ經タルモノト雖稅務署長ヲ對手人トシテ出訴スルモ違法ニ非ス（三十八年第三百八十八號三十九年十一月二日宣告）

第一二章　減損更訂

請求ノ條件

第二十九條　左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由ヲ申立ツルコトヲ得

一　課稅ノ標準タル資本金額・賣上金額・收入金額・請負金額・報償金額又ハ建物賃貸價格半額未滿ニ減シタルトキ

二　課稅ノ標準タル從業者各月ニ於ケル最多數ノ平均人員前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均人員二分ノ一未滿ニ減シタルトキ

行政實例

申出期間ナキヲ以テ納稅後ト雖翌年一月迄ハ申立ツルコトヲ得(二九、八大藏省議決定)

稅金徵收猶豫

第三十條　政府ハ前條ノ申出ニ依リ營業者ノ狀況ニ照ラシ營業稅ヲ減額スル必要アリト認ムルトキハ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

減額程度

第三十一條　政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ査覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ稅金ヲ減額スルコトヲ得

一　課稅ノ標準タル賣上金額・收入金額・請負金額・報償金額ハ前々年中ノ總額資本金額・運轉資本金額・建物賃貸價格ハ前々年中ノ平均額ノ半額ニ達セサルトキ

二　課稅ノ標準タル從業者各月ニ於ケル最多數ノ平均人員前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均人員ノ二分ノ一ニ達セサルトキ

課稅標準ノ最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其其ノ割合ヲ以テ稅金ヲ徵收ス

行政實例

一　二會社合併シテ一ノ會社ヲ設置スルニ當リ甲會社ハ其ノ資本ノ月割計算上二分ノ一以上減損トナリ更訂申出アルトキハ合併前ニ於ケル二會社分ト合併後ニ於ケル新會社分トヲ通シテ計算スヘシ(四〇、五、一七札幌稅務監督局ニ回答)

二　課稅標準ノ內一又ハ二皆無トナリシ事實ヲ確認セラルルモノモ第三十一條第二項ニ依リ課稅スルモノトス(四一、三、九名古屋稅務監督局ニ回答)

三　前年ノ課稅標準額ニ基キ課稅シタル酒造業中特越酒ヲ一月ヨリ四月ニ至ル期間內ニ販賣シタルモノニシテ其ノ年中休造シタルモノノ減額更訂ヲ爲スニ當リ運轉資本ハ月末現在額ノ平均ニ依リ固定資本及建物賃貸價格ハ異動ナキニ付當初ノ申告額ニ依リ法令ノ規定ニ依リ改算ス(四〇、四、三仙臺稅務監督局ニ回答)

四　建物賃貸價格ハ其ノ年中ニ於ケル實額ヲ合計シタルモノニ依ルヘキモノナルカ故ニ翌年一月申告スヘキ場合ニ於テハ前年ニ於テ實際使用シタル各月ノ賃貸價格ヲ合計シ之ニ十二月ヲ乘シ前年中使用ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ定ム(四五、一、一一秋田稅務監督局ニ回答)

五　査覈ノ結果當年中營業者全ク休業ノ事實ヲ認メタル場合ニ於テモ休業ノ爲メ皆無ニ歸シタル課稅標準ヲ除キ第三十一條第二項ニ依リ課稅ス（大正二年會計檢査院ニ回答）

施行規則

第五十四條　營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申立アリタルトキハ稅務署長ハ課稅標準計算ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一項第一號又ハ第二號ノ規定ニ該當スルトキハ課稅標準ヲ更訂シ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

行政實例

改算ノ結果課稅標準ノ或モノニシテ法第三十一條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノアルトキハ其ノ該當スルモノハ勿論該當セサルモノ及却テ增加スルモノニ至ル迄悉皆改算更訂ス（三四、四會計檢査院ニ回答）

第一三章　帳簿備付義務

第三十二條　第一條ニ掲クル營業者ハ貨物ノ仕入・賣上・受入・貸付・回送・從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲メ帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

行政實例

納稅義務者ニ限ラス帳簿ヲ備付クヘキモノトス（二九、九、九主稅局通牒）

第一四章　收稅官吏ノ權能

第三十三條　收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

檢査及質問

行政實例

收稅官吏ハ何時ニテモ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得但シ成ルヘク營業ノ妨害トナラサル時期ヲ選ムベキハ當然ナリ（四三、一二、二一大阪稅務監督局ニ回答）

施行規則

第五十六條　營業稅法第三十三條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

檢査章提示

檢査章樣式

大正三年十一月大藏省令第十九號 檢査章樣式

大正三年十月勅令第二百二十九號營業稅法施行規則第五十六條ニ依リ稅務署ノ交付スヘキ檢査章樣式左ノ通相定ム

樣式　用紙厚質白紙縱二寸五分横一寸五分

表

第何號

檢査章 稅務署印

裏

何稅務署

官氏名

第一五章　罰則

第三十四條　第十三條ノ申告ヲ爲サス若クハ虛僞ノ申告ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若クハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

行政實例

廢業屆ヲ怠リタル者ニ對シ第三十四條ヲ適用シ得（三〇、八、三青森稅務管理局ニ回答）

第三十四條ノ二　營業稅ヲ脫稅シタル者ハ脫稅金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首スル者ハ其ノ稅金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第三十四條ノ三　營業稅ノ調査又ハ審査ニ參與シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第三十五條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書第三十九條第二項・第四十條・第四十一條・第四十八條第二項・第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

參照法令

刑法

第三十八條第三項

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ス但シ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ輕減スルコトヲ得

第三十九條第二項

心神耗弱者ノ行爲ハ其ノ刑ヲ減刑ス

第四十條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其ノ刑ヲ減輕ス

第四十一條　十四歲ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第四十八條第二項

二箇以上ノ罰金ハ各罪ニ付定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第六十三條　往犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照ラシテ減輕ス

第六十六條　犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第四編　府縣直接國稅附加稅

第一章　納稅義務ノ發生

府縣住民

府縣制　明治三十二年三月法律第六十四號

第百四條　府縣內ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

參照法令

民法第二十一條　各人ノ生活ノ本據ヲ以テ其ノ住所トス

同第五十條　法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

商法第四十四條(第二項)　會社ノ住所ハ其ノ本店ノ所在地ニ在ルモノトス

他府縣人

第百五條　三箇月以上府縣內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

課稅物件ノミアル場合

第百六條　府縣內ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖府縣內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有

シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ

行政實例

販賣者カ他府縣ニ仕入店ヲ有スルトキハ之ヲ營業所ト認ムルモノトス

皇族所有地

大正二年七月皇室令第六號地租・地租附加稅及段別割ニ關スル件

地租・地租附加稅及段別割ニ關スル法規ハ皇族賜邸ヲ除クノ外皇族所有ノ土地ニ之ヲ適用ス但シ皇室財產令第二十一條ニ揭ケタル皇族所有ノ土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

參照法令

皇室財產令第二十一條、第二條、第三條、及第十八條乃至第二十條ノ規定ハ太皇大后皇太子皇太子妃皇太孫妃未タ婚嫁セサル未成年ノ皇子及皇太子皇太孫ノ子ニシテ未タ婚嫁セサル未成年者ノ財產ニ關シ之ヲ準用ス

第二章　課稅外ノモノ

第百十條　府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除クノ外市町村稅ノ例ニ依ル

參照法令

市制第百二十一條（町村制第百一條）所得稅法第五條ニ揭ケル所得ニ對シテハ市（町村）稅ヲ課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境內地並敎會說敎所ノ用ニ供スル建物及其ノ構內地ニ對シテ市（町村）稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ敎會所說敎所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市（町村）稅ヲ課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニアラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市（町村）稅ヲ賦課ス

ルコトヲ得ス

前四項ノ外市(町村)稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第三章　制限

第百七條　納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ、使用シ、占用スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滯在同時ニ府縣ノ內外ニ涉ル者ノ前項以外ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其收入ヲ各府縣ニ平分シ其一部ニノミ賦課スヘシ

第百八條　府縣ノ內外ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲ス營業又ハ其ノ收入ニ對シ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅附加稅・所得稅附加稅又ハ鑛業稅附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其步合ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

鑛區又ハ砂鑛區カ府縣ノ內外ニ涉ル場合ニ於テ鑛區稅又ハ砂鑛區稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ鑛區又ハ砂鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本稅額ヲ分割シ其一部ニノミ賦課スヘシ

明治四十一年一月法律第三十七號　地方稅ノ制限ニ關スル件

第一條　北海道・府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ地租附加稅又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課稅スルコトヲ得ス

一　北海道・府縣(沖繩縣ヲ除ク)沖繩縣ノ區及町村

附加稅ノミヲ課スルトキ

宅地地租　百分ノ十三

其ノ他ノ土地地租　百分ノ三十二

段別割ノミヲ課スルトキ

一段歩ニ付　毎地目平均金四十錢

附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ十三其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ三十二ト附加稅トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二　其ノ他ノ公共團體

附加稅ノミヲ課スルトキ

宅地地租　百分ノ九

其ノ他ノ土地地租　百分ノ二十一

段別割ノミヲ課スルトキ

一段歩ニ付　毎地目平均金四十錢

附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ九・其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ二十一ト附加稅トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

營業稅附加稅率

第二條　北海道・府縣・其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ營業稅附加稅ヲ課スルノ外營業稅ヲ納ムル者ノ營業ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

一　北海道・府縣　營業稅　百分ノ十一

二　（略）

行政裁判例

營業稅法第二十一條ノ營業稅不徵收期間內ニアルモノト雖明治四十一年法律第三十七號第二號ノ所得營業稅ヲ納ムル者ニ該當スルモノトス故ニ特別稅ヲ課スルコトヲ得ス

所得稅附加稅率

第三條　北海道・府縣・其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

一　北海道・府縣　所得稅　百分ノ四

二　（略）

第二種ノ所得ニ對シテハ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

制限外賦課

參照法令

所得稅法第三條（第一項中）第二種　此法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子　千分ノ二十

同第五條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ課稅スルコトヲ得

左ニ揭クル場合ニ於テハ特ニ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

一　內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二　非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三　水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ニ依リ制限ヲ超過シテ課稅スルハ第一條乃至第三條ニ定メタル各稅目ニ對スル賦課カ各其ノ制限ニ達シタルトキニ限ル但シ地租附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ達シタルトキハ附加稅カ制限ニ達シタルモノト看做ス其ノ段別割ノミヲ賦課シタル場合ニ於テ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ達シタルトキ亦同シ

同第七條　本法ノ規定ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

參照法令

罹災救助基金法第四條　府縣ハ罹災救助基金貯蓄ノ爲地租、所得稅（第二種所得ノ所得稅ヲ除ク）營業稅ノ附加稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ明治四十一年法律第三十七號ニ依ル制限ノ外千分ノ十三以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

東京市區改正條例第三條　市區改正費用ニ充ツル爲メ東京府區郡內ニ於テ左ノ特別稅ヲ賦課ス

一　地租割　地租百分ノ十二半以內但耕地ヲ除ク

一　營業稅竝雜種稅　地方稅十分ノ四以內

鑛業稅附加稅率

一　家屋稅　同上

一　其ノ他勅令ヲ以テ指定シタルモノ

明治三十五年勅令第百六十五號

一　國稅營業割　營業稅百分ノ十七

鑛業法　明治三十八年三月法律第四十五號

第八十八條　北海道・府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各鑛產稅百分ノ十・試掘鑛區稅百分ノ三・採掘鑛區稅百分ノ七以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

前項ノ附加稅ノ外北海道・府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫・鑛產物・鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物・器具・機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區竝間切島其他ノ町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

行政實例

鑛業稅附加稅ハ罹災救助基金法ニ依ル積立ヲ爲ス場合ニ於テハ鑛業法ノ制限外ニ賦課スルコトヲ得

砂礦區稅附加稅率

砂鑛區稅法　明治四十三年三月法律第九號

第三條　北海道・府縣及市町村ハ砂鑛區稅ニ對シ百分ノ十以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

賣藥營業稅附加稅率

賣藥稅法　明治三十八年五月法律第七十一號

第一條ノ六(一項)北海道及府縣ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ三以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

第四章　不均一賦課

第百十一條　府縣內ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

明治三十二年六月勅令第三百十六號

第三條　法律命令中別ニ規定アルモノヲ除クノ外市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事件ニ

シテ其ノ市部ト郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ爲シ難キ事情アルトキハ其ノ費用ニ限リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第五章　一錢未滿ノ課稅標準及稅額計算法

明治四十年三月法律第三十一號國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル件

第一條　國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ國稅ノ課稅標準ニ付テモ亦同シ

同第二條　法令ノ規定又ハ行政上ノ處分ニ依リ分納ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ分納額ニ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ其ノ端數ハ最初ノ納期ノ分納額ニ合算ス

同第三條　地租ノ稅額ニ付テハ前二條ノ規定ヲ適用セス其ノ稅額及每納期ノ分納額ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ五厘トシテ計算ス

同第四條　國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ其ノ全額一錢未滿ノモノハ之ヲ五厘トシテ計算ス

國庫ノ收入ニシテ收入印紙又ハ郵便切手ヲ以テ納メシムルモノニ付テハ第一條及前項ノ規定ヲ適用セス

一筆ノ土地ノ地價ニシテ其ノ全額一錢未滿ノモノハ切上ケテ一錢トス

前三項ノ外國庫ノ收入及仕拂上本法ノ規定ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

同第七條　本法ノ規定ハ府縣市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ租稅及公課ニ之ヲ準用ス

第六章　決定

第百九條　府縣稅賦課ノ細目ニ依ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ

關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限內ニ其ノ議決ヲ爲サザルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第四十一條　府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

三　法律命令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手數料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

第四十二條　府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第七章　納期

明治三十三年三月勅令第八十一號府縣稅ノ徵收ニ關スル件

第十五條　府縣稅ノ徵收期ハ府縣知事之ヲ定ム

第八章　納稅減免及延期

第百十三條　府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限リ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

第九章　異議申立

第百十五條　府縣稅ノ賦課ヲ受クル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以內ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

（第二項略）

前二項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

（第三項略）

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員町村吏員ヨリ

モ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

參照法令

行政裁判法

第二十二條　行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此ノ限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十四條　行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其ノ名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條　訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一　原告ノ身分、職業、住所、年齡

二　被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三　要求ノ事件及其理由

四　立證

五　年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書竝ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條　訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第一〇章　行政廳ノ權能

第百十六條　府縣稅ノ賦課ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日沒マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

參照法令

憲法

第二十五條　日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラルルコトナシ

第五編　市町村直接國稅附加稅

第一章　納稅義務ノ發生

住民

市制　明治四十四年四月法律第六十八號

町村制　明治四十四年四月法律第六十九號

市制第八(町村制六)條　市(町村)內ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市(町村)住民トス

市(町村)住民ハ本法ニ從ヒ市(町村)ノ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市(町村)ノ負擔ヲ分擔スル義務ヲ負フ

參照法令

民法第二十一條　各人生活ノ本據ヲ以テ其ノ住所トス

同第五十條　法人ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

商法第四十四條(第二項)　會社ノ住所ハ本店ノ所在地ニ在ルモノトス

行政實例

一　住宅カ兩町村ノ地域ニ跨ル場合ト雖住所ハ何レカ一方ノ町村ニ在ルモノトス而シテ其ノ區別ハ專ラ日常ノ取引交誼等ニ徵シ其ノ關係ノ厚薄疏密ニ依リ定ムルモノトス

二　甲町村ノ住家ニ家族ヲ置キテ町村ノ住家ニテ營業ヲ爲シ平素相往來シ交互寢食ヲ爲ス者ノ住所ハ事實ニ依リ判斷スヘキモ他ニ格別ノ事由ナキモノハ其ノ住所ハ甲町村ニアルモノトス

他市町村人

市制第百十八(町村制九十八)條　三月以上市(町村)内ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ市(町村)税ヲ納ムル義務ヲ負フ

行政實例

他町村民ハ少クトモ三月間々斷ナク滯在スルニ非サレハ納税ノ義務ナシ

課税物件ノミアル場合

市制第百十九(町村制九十九)條　市(町村)内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖市(町村)内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ・市(町村)内ニ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ市(町村)内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地・家屋・物件・營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市(町村)税ヲ納ムル義務ヲ負フ

行政實例

市町村ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス以上ハ假令其ノ住民又ハ三月以上ノ滯在者ニ非スト雖市町村ハ之ニ對シテ行爲税ヲ賦課シ得ルモノトス

皇族所有地

大正二年七月皇室令第六號　地租・地租附加税及段別割ニ關スル件

地租・地租附加税及段別割ニ關スル法規ハ皇族賜邸ヲ除クノ外皇族所有ノ土地ニ之ヲ適用ス但シ皇室財産令第二十一條ニ揭ケタル皇族所有ノ土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

參照法令

皇室財産令第二十一條(第四編第一章ニ揭出)

第二章　課税外ノモノ

市制第百二十一(町村制百一)條　所得税法第五條ニ揭クル所得ニ對シテハ市町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社・寺院・祠宇・佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境內竝教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構內地ニ對シテハ市(町村)稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所・說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國・府縣・郡・市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市(町村)稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市(町村)稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外市(町村)稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

參照法令

附加稅賦課法

所得稅法

第四條ノ六　府縣市町村其ノ他ノ公共團體、神社、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス

第五條　第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

一　軍人從軍中ノ俸給、手當

二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給退隱料

三　旅費、學費金及法定扶養料

四　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

五　外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資產營業又ハ營業ニ依ル所得

六　此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金及割賦賞與金

七　乘馬ノ義務アル軍人カ政府ヨリ受クル馬糧、繫畜料及馬匹保續料

第三章　制限

市制第百十七(町村別第九十七)條　市(町村)稅トシテ賦課スル

コトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　國稅府縣稅ノ附加稅

二　特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第百六十七(町村制百四十七)條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

(第三項略)

行政實例

一　地租附加稅ハ地租ヲ課稅標準ト爲スヘキモノニシテ地價ヲ課稅標準ト爲スヘキモノニ非ス

二　附加稅ハ本稅ニ依ルニ非サレハ賦課スルコトヲ得ス

三　附加稅ノ納期ハ納稅者ノ經濟上ニ於ケル便宜ヲ考察シテ定ムヘキハ勿論ナリト雖成ルヘク本稅ノ徵收期日ト同日ニスルカ又ハ其ノ期日後ニ於テ之ヲ定ムヘキモノトス

課稅物件カ市町村ノ內外ニ涉ルトキ

四　宅地又ハ宅地以外ノ土地ノ一方ニ對シ課スル附加稅ハ特別稅ナリ

市制第百二十(町村制第百)條　納稅者ノ市(町村)外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ市(町村)外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市(町村)稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

市(町村)ノ內外ニ於テ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滯在市(町村)ノ內外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市(町村)稅ヲ賦課スル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政實例

一　本稅ノ納稅者トハ市町村內ニ住所ヲ有スル者及市町村ニ於ケル三月以上ノ滯在者ヲ指シタルモノトス

二　電車停留場ノミニシテ別ニ切符等賣捌ヲ爲ササルモノハ營業所トアルニ

明治四十四年九月勅令第二百四十一號市税及町村税ノ賦課ニ關スル件

第一條　市町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本税ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ附加税ヲ賦課セムトスルトキハ市町村長（戸長又ハ之ニ準スヘキモノヲ含ム）ト協議ノ上其ノ本税額ノ歩合ヲ定ムヘシ

前項ノ協議調ハサルトキハ其ノ郡内ニ止マルモノハ郡長之ヲ定メ其ノ郡（島ヲ含ム以下之ニ倣フ）市又ハ數郡若ハ數市ニ渉ルモノハ府縣知事之ヲ定メ其ノ數府縣（北海道ヲ含ム以下之ニ倣フ）ニ渉ルモノハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第一項ノ場合ニ於テ直接ニ收入ヲ生スルコトナキ營業所アルトキハ他ノ營業所ト收入ヲ共通スルモノト認メ前二項ノ規定ニ依リ本税額ノ歩合ヲ定ムヘシ府縣ニ於テ數府縣ニ渉ル營業又ハ其ノ收入ニ對シ營業税附加税又ハ所得税附加税賦課ノ歩合ヲ定メタルモノアルトキハ其ノ歩合ニ依ル

本税額ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本税額ト看做ス

同第二條　鑛區（砂鑛區域ヲ含ム以下之ニ倣フ）カ市町村ノ内外ニ止マル場合ニ於テ鑛區税（砂鑛區税ヲ含ム）附加税ヲ賦課セムトスルトキハ鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ其ノ本税額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

市町村ノ内外ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所ヲ設ケアル場合ニ於テ鑛產税ノ附加税ヲ賦課セムトスルトキハ前條ノ例ニ依ル鑛區カ營業所所在ノ市町村ノ内外ニ渉ル場合亦同シ

同第三條　住所滯在市町村ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市町村税ヲ賦課セムトスルトキハ其ノ收入ヲ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

前項ノ住所又ハ滯在其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納税義務ノ發

生シタル翌月ノ初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ經過迄月割ヲ以テ賦課スヘシ但シ賦課後納稅義務者ノ住所又ハ滯在ニ異動ヲ生スルモ賦課額ハ之ヲ變更セス其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スルモ賦課額ハ之ヲ變更セス其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スル市町村ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スヘシ

地租附加稅及段別割ノ課率

明治四十年三月法律第三十七號地方稅ノ制限ニ關スル件

第一條　北海道・府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ地租附加稅又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課稅スルコトヲ得ス

一　北海道・府縣（沖繩縣ヲ除ク）沖繩縣ノ區及町村

附加稅ノミヲ課スルトキ

宅地　地租百分ノ十三

其ノ他ノ土地　地租百分ノ三十二

段別割ノミヲ課スルトキ

一段歩ニ付　毎地目平均金四十錢

附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ十三其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ三十二ト附加稅トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二　其ノ他ノ公共團體

附加稅ノミヲ課スルトキ

宅地　地租百分ノ九

其ノ他ノ土地　地租百分ノ二十一

段別割ノミヲ課スルトキ

一段歩ニ付　毎地目平均金四十錢

附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ九其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ二十一ト附加稅額トノ差額ヲ超ユル

コトヲ得ス

行政實例

地租附加稅ハ第一條ノ課率比例ニ比準スルニ非サレハ均一ニ非ス

營業稅附加稅率

同第二條　北海道・府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ營業稅附加稅ヲ課スルノ外營業稅ヲ納ムル者ノ營業ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

一　北海道・府縣　營業稅　百分ノ十一

二　其ノ他ノ公共團體　營業稅　百分ノ十五

所得稅附加稅率

同第三條　北海道・府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

一　北海道・府縣　所得稅　百分ノ四

二　其ノ他ノ公共團體　所得稅　百分ノ十五

第二種ノ所得ニ對シテハ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

府縣費分賦ノ場合ノ附加稅率

參照法令

所得稅法第三條（第一項中）第二種　此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子　千分ノ二十

同第四條　府縣費ノ全部ヲ市ニ分賦シタル場合ニ於テハ市ハ前三條ノ市稅制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ府縣稅制限ニ達スル迄課稅スルコトヲ得

府縣費ノ一部ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ市町村ハ前三條ノ市町村稅制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ課稅スルコトヲ得但シ府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ府縣稅ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

制限外賦課

同第五條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ賦課スルコトヲ得

左ニ掲クル場合ニ於テハ特ニ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ前

項ノ制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得

一　内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二　非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三　水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ニ依リ制限ヲ超過シテ課税スルハ第一條乃至第三條ニ定メタル各税目ニ對スル賦課カ各其ノ制限ニ達シタルトキニ限ル但シ地租附加税及段別割ヲ併課シタル場合ニ於テハ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ達シタルトキハ附加税カ制限ニ達シタルモノト看做ス其ノ段別割ノミヲ賦課シタル場合ニ於テハ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ達シタルトキ亦同シ

前三項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

同第七條　本法ノ規定ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

鑛業税附加税率

砂鑛區税附加税率

參照法令

罹災救助基金法第四條及東京市區改正條例第三條ハ第四編第三章ニ掲出

鑛業法　明治三十八年三月法律第四十五號

第八十八條　北海道・府縣及市町村ハ鑛業税ニ對シ各鑛業税百分ノ十・試堀鑛區税百分ノ三・採堀鑛區税百分ノ七以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得

前項ノ附加税ノ外北海道・府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫・鑛産物・鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物・器具機械ヲ標準トシテ課税スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區竝間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

砂鑛區税法　明治四十三年三月法律第九號

第三條　北海道・府縣及市町村ハ砂鑛區税ニ對シ百分ノ十以内

ノ附加税ヲ課スルコトヲ得

賣藥税法（明治三十八年五月法律第七十一號）

賣藥營業税附加税率

第一條（第二項）　市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ賣藥營業税ニ對シ本税百分ノ五以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得

第四章　不均一賦課

市制第百二十四（町村制第百四）條　數人又ハ市（町村）ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ市（町村）ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

市制第百六十七（町村第百四十七）條　左ニ揚クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

六　均一ノ税率ニ依ラスシテ國税又ハ府縣税ノ附加税ヲ賦課スルコト

八　第百二十四條（町村制第百四）ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市（町村）ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト

行政實例

一　營業税法第一條列記ノ營業税額ニ依リ均一ノ税率ニ依ラスシテ附加税ヲ賦課スルトキハ許可ヲ要ス

二　不均一税ハ必スシモ市町村内ノ地域ニ依リ税率ヲ異ニスル場合ノミニ限ラス地租附加税ニ於テ法定ノ比率ヲ異ニシ又ハ所得税附加税ニ於テ本税ノ階級ニ依リ其ノ税率ヲ異ニスル如キモ亦不均一賦課ナリ

三　均一ノ税率ニ依ラストハ市町村内ノ各納税義務者ニ對シテ直接ニ不均一ノ附加税ヲ賦課スルノ謂ナリトス

訴願裁決例

町村制ニ所謂均一ノ税率ニ依ラサル賦課ハ町村内各納税義務者ニ對シ直ニ不均一ノ附加税ヲ賦課スヘキ場合ヲ稱スルモノニシテ組合町村ニ於テ其ノ組合内各町村ニ對スル不均一分賦ヲ議決シタル場合ノ如キハ包含セス

第五章　一錢未滿ノ課税標準及税額計算法

明治四十一年三月法律第三十一號　國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル件

第一條　國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ國稅ノ課稅標準ニ付テモ亦同シ

同第二條　法令ノ規定又ハ行政上ノ處分ニ依リ分納ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ分納額ニ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ其ノ端數ハ最初ノ納期ノ分納額ニ合算ス

同第三條　地租ノ稅額ニ付テハ前二條ノ規定ヲ適用セス其ノ稅額及每納期ノ分納額ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ五厘トシテ計算ス

同第四條　國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ其ノ全額一錢未滿ノモノハ之ヲ五厘トシテ計算ス

國庫ノ收入金ニシテ收入印紙又ハ郵便切手ヲ以テ納メシムルモノニ付テハ第一條及前項ノ規定ヲ適用セス

一筆ノ土地ノ地價ニシテ其ノ全額一錢未滿ノモノハ切上ケテ一錢トス

前三項ノ外國庫ノ收入及仕拂上本法ノ規定ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

同第七條　本法ノ規定ハ府縣市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ租稅及公課ニ之ヲ準用ス

行政實例

地租附加稅ハ宅地及其ノ他ノ土地ノ課率ニ依リ算出シタルモノノ合計ニ對シ法律第三十一號ヲ適用ス

第六章　決定

市制第四十二條（町村制第四十）條　市（町村）會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

五　法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料・手數料・市稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムルコト

市制第四十三條　市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

行政實例

市町村ハ適宜其ノ定ムル規定ニ從ヒ國税附加税ノ月割徴收ヲ爲スコトヲ得

第七章　納税延期及減免

市制第百二十八(町村制第百八)條　市(町村)長ハ納税者中特別ノ事情アル者ニ對シ納税延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合ハ市參事(町村)會ノ議決ヲ經ヘシ

市(町村)ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市税ヲ減免スルコトヲ得

行政實例

一　特別ノ事情アル者トハ專ラ其ノ人ノ資力ヲ意味セルノ言葉ナルヲ以テ例ヘハ家屋カ火災ニ罹リ又ハ土地カ荒廢ニ歸シタリトシテ直ニ本條ニ該當スルモノト謂フヲ得ス故ニ無資力ナル者ト同樣ノ意味ト解スヘキモノトス

二　減免ハ納税ノ義務ヲ果ス能ハサル者ニ對スル處分ナルヲ以テ産物ノ保護又ハ發達ヲ期シ課税ヲ減免スルカ如キハ本條ノ範圍外ナリ

三　免租トハ課税外ニ置キ初ヨリ租税ヲ賦課セサルトノ謂ニアラスシテ一旦賦課セムトスル市町村税ノ徴收ヲ除外スルノ意思ナリ

第八章　異議ノ申立

市制第百三十(町村制第百十)條　市(町村)税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徴税令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ市(町村)長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

(二項略)

前二項ノ異議ハ之ヲ市參事會(町村會)ノ決定ニ付スヘシ

決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニハ市(町村)長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

參照法令

訴願法

第二條　訴願セムトスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其ノ裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

（三項略）

第五條　訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ渉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條　訴願書ハ其ノ不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

訴願書ニハ證憑書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其ノ裁決書ヲ添フヘシ

第八條　行政訴願ヲ爲シタル後六十日經過シタルトキハ其ノ處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ得タル訴願ニシテ其ノ裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ理由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍ホ之ヲ受理スルコトヲ得

行政實例

第四編　府縣直接國税附加税第九章異議ノ申立ニ掲出

第九章　市（町村）ノ權能

市制第百二十七（町村制第百七）條　市（町村）税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

參照法令

憲法

第二十五條　日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及捜索セラルルコトナシ

行政實例

一　家宅トハ單ニ居宅ノミナラス控藏又ハ屋敷内ノ土地等モ包含ス

二　興業場ノ如キハ本條ニ所謂營業所ニ該當スルモノトス

三　當該吏員ノ携帶スヘキ證憑ハ市町村ニ於テ適宜之ヲ定メ然ルヘキモノトス

四　當該吏員ハ市町村長之ニ當ルト又ハ助役書記等ヲシテ之ニ當ラシムルコトハ適宜ナリ

第六編　印紙稅

第一章　納稅義務ノ發生

印紙稅法　明治三十二年三月法律第五十四號

第一條　財產權ノ創設・移轉・變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書・帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二章　課稅外ノ證書及帳簿

第五條　左ニ掲クル證書帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

一　官廳又ハ公署ヨリ發スル證書・帳簿

一　官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書・帳簿

一　國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書

一　慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官署若ハ公署ニ提出スル證書

一　俸給・給料・歳費・手當金・賞與金・年金・恩給金・扶助料・旅費及救恤ノ受取書

一　小切手

一　金高五圓未滿ノ爲替手形・約束手形

一　金高一圓未滿ノ物品切手

一　金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀

一　金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書

一　金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書

一　主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約

一　證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書

一　株券・債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載

一　手形ノ引受・保證

一　手形及證券ノ拒絶證書

一　手形及證券ノ複本・謄本

參照法令

商法

第四百十五條　爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

一　其ノ爲替手形タルヘキコトヲ示スヘキ文字

二　一定ノ金額

三　支拂人ノ氏名又ハ商號

四　受取人ノ氏名又ハ商號

五　單純ナル仕拂ノ委託

六　振出ノ年月日

七　一定ノ滿期日

八　支拂地

第五百二十五條　約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　約束手形タルコトヲ示スヘキ文字

二　一定ノ金額

三　受取人ノ氏名又ハ商號

四　單純ナル仕拂ノ約束

五　振出ノ年月日

六　一定ノ滿期日

七　振出地

永代借地及其ノ上ニ築造セラレタル建物ニ關スル一切ノ法律行爲ニ付作成シタル證書帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ免除スヘキモノトス（四二、六、四主税局通牒）

郵便貯金法　明治三十八年二月法律第二十三號

第十七條　郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙税ヲ課セス

郵便爲換法　明治三十三年三月法律第五十九號

第六條　郵便爲換ニ關スル書類ニ付テハ印紙税ヲ課セス

間接國税犯則者處分法　明治三十三年三月法律第六十七號

第七條（二項）差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徴シ所有者所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス

保管金規則　明治二十三年一月法律第一號

第四條　保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ印紙税ヲ課セス

預金規則　明治十八年五月布告第十三號

第八條　預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印紙税ヲ納ムルニ及ハス

國税徴收法　明治三十年三月法律第二十一號

第二十二條（第二項）　差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス

一般證書

第三章　税額

第二條　證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載金高萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙税ヲ納ムヘシ但シ印紙税額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價格ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

行政實例

一　一萬圓ノ請負契約金額ヲ變更シテ一萬五千圓トスト記載シ又ハ一萬圓ノ同金額ヲ改メテ八千圓トスト記載スルカ如キ前契約ノ金類ヲ變更スル追加契約書ニハ一萬五千圓又ハ八千圓ニ對シ第二條第一項ニ依リ納税ス(三五、五、二七島根縣ニ問答)

二　請負契約金額一萬圓ニ五千圓ヲ追加又ハ一萬圓ノ内二千圓ヲ減額スト記載シタルトキハ其ノ證書ノ目的トスル金額ハ五千圓又ハ二千圓ニ付其ノ五千圓又ハ二千圓ニ對シ納税スヘキモノトス(同上)

三　左ノ甲式ノモノヲ乙式ニ變更スルモノハ第二條ニ依リ納税スヘキモノトス(同上)

甲式

一金一萬圓　某學校建築工事請負金

内

金五千圓　本校々舍建築費

金二千圓　倉庫同

金三千圓　渡リ廊下同

乙式

一金一萬圓

内

金六千圓　本校々舍建築費

金千五百圓　倉庫同

金二千五百圓　渡リ廊下同

四　相互保險會社ノ保險證券貸付金契約證書ハ本條ニ依リ納税ス(四三、八農商務省商務局ニ問答)

約束手形

第三條　約束手形ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高ニ應シ左ノ印紙税ヲ納ムヘシ

金高二百圓以下ノモノ	印紙税　三錢
金高千圓以下ノモノ	印紙税　五錢

金高五千圓以下ノモノ　印紙稅　十錢
金高一萬圓以下ノモノ　印紙稅　二十錢
金高二萬圓以下ノモノ　印紙稅　五十錢
金高三萬圓以下ノモノ　印紙稅　一圓
金高五萬圓以下ノモノ　印紙稅　二圓
金高十萬圓以下ノモノ　印紙稅　四圓
金高十萬圓ヲ超ユルモノ　印紙稅　七圓

參照法令

商法第五百二十五條（約束手形ノ規定第二章ニ掲出）

外國貨幣ニ依ルモノ

第八條　證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

特定ノ證書及帳簿

第四條　左ニ揭クル證書帳簿ニ關シテハ證書ハ一通每ニ帳簿ハ一冊一年以內ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

一　委任狀　印紙稅　二錢
一　爲替手形　印紙稅　三錢
一　銀行預金證書　印紙稅　三錢
一　船荷證券　印紙稅　三錢
一　運送貨物引換證　印紙稅　三錢
一　倉庫預證券　印紙稅　三錢
一　倉荷質入證券　印紙稅　三錢
一　保險證券　印紙稅　三錢
一　株券　印紙稅　三錢
一　債券　印紙稅　三錢
一　株式申込證　印紙稅　三錢
一　地上權・永小作權・地役權ニ關スル證書　印紙稅　三錢
一　使用貸借・賃貸借・雇傭・寄託・定期金ニ關スル契約證書　印紙稅　三錢
一　定款及組合契約書　印紙稅三錢
一　權利ノ變更ニ關スル證書　印紙稅三錢

一　追認承認ニ關スル證書　印紙税　三錢
一　物品切手　印紙税　三錢
一　賣買仕切書　印紙税　三錢
一　送狀　印紙税　三錢
一　受取書　印紙税　三錢
一　金高記載ナキ證書　印紙税　三錢
一　擔保品差入證書・擔保品預證書　印紙税　三錢
一　通帳　印紙税　三錢
一　判取帳　印紙税　二十五錢

參照法令

商法

第四百四十五條（爲替手形ノ規定第二章ニ掲出）

第六百二十條　船長ハ傭船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遲滯ナク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ得

第三百三十三條　運送人ハ荷送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一　前條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二　荷送人ノ氏名又ハ商號

三　運送賃

四　貨物引換證ノ作成地及其ノ作成年月日

第三百五十九條　預證券及質入證券ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名スルコトヲ要ス

一　受寄物ノ種類、品質、數量及ヒ其荷造ノ種類、個數竝ニ記號

二　寄託者ノ氏名又ハ商號

三　保管ノ場所

四　保管料

五　保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間

六　受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金額、保險期間及保險者ノ氏名又ハ商號

七　證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第四百三條（第二項）

保險證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

一　保險ノ目的

二　保險者ノ負擔シタル危險

三　保險價格ヲ定メタルトキハ其ノ價格

四　保險金額

五　保險料及ヒ其支拂ノ方法

六　保險期間ヲ定メタルトキハ其ノ始期及終期

七　保險契約者ノ氏名又ハ商號

八　保險契約ノ年月日

九　保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第百四十八條　株券ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

一　會社ノ商號

二　第百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日

三　資本金額

四　一株ノ金額

一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメサル場合ニ於テハ拂込タル毎ニ其金額ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第二百五條（第二項）　債券ニハ會社ノ商號及ヒ第百七十三條第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

（第百七十三條一債券ノ番號二社債ノ總額各社債金額社債ノ私率社債償還ノ方法及時期）

第二十六條（第二項）　株式申込書ハ發起人之ヲ作リ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　定款作成ノ年月日

二　第二百二十條乃至第二百二十二條ニ掲ケタル事項

三　各發起人カ引受ケタル株式ノ數

四　第一回拂込ノ金額

五　一定ノ時期マテニ會社カ成立セサルトキハ株式ノ申込ヲ取消シ得ヘキコト

額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ引受價格ヲ記載スルコトヲ要ス

行政實例

一　煙草作業場外擔當人ヨリ常備職工ニ交付スル通帳ハ日誌ナレハ印紙税法ヲ適用セス（三八、四大藏省議決定）

二　酒造税法ニ係ル保證物提供書ニシテ金錢若クハ有價證券ヲ目的トシタル場合ニ於テハ擔保品差入證書ナリ（三三、三、二九郡山税務管理局ニ回答）

三　酒造納税保證トシテ一旦提供シタル不動産ヲ以テ更ニ最初ノ石數トヲ合算シタル石數ニ對スル保證物ニ供用スルコトヲ證明スル證書ハ權利ノ變更ニ非ス（三三、七、二松本税務管理局ニ回答）

四　賣買仕切書トハ販賣業者カ他人ノ注文ニ應シテ自己ノ商品ヲ賣渡シ其ノ物品及代價等ヲ證明スル爲メ若クハ決算用ニ供スル爲メ注文者ニ送付スル書面ヲ云フモノトス（三三、七、二四松本税務管理局ニ回答）

五　隔地者間ニ於テ商品ノ賣買契約ヲ爲サムカ爲メ甲ヨリ乙ニ對シ商品購求ノ申込ヲ爲シタルモノアリトセンニハ取引ノ慣習上別ニ承諾ノ通知ヲ發スルコトナク直ニ商品引渡ニ着手シ發送ノ手續ヲ完ウスルト同時ニ左記ノ如キ書面ヲ甲ニ送付スルモノアリ此ノ證書ハ賣買仕切書トス（三五、八、一八大阪税務管理局ニ回答）

何　某　殿

第　號　　請求書　　明治三十五年7月14日

品名	摘要	キロ	和斤	替	金額
眞鍮板	何オンス	150	250	300,000	75,000

以上本日　候ニ付代金御支拂被下度候此段請求仕候也

（注意請求書ハ本書ノ外改メテ差出不申候ニ付其御含ニテ御取扱可成下候也）

六　左ノ書式ノ端書案内狀モ賣買仕切書トス（同上）

端書

出　荷　御　報

一拾六圓五拾八錢貳厘　六七四五打　一丸二百四十七丸半

内

金四拾九錢五厘　貳拾錢引

拝啓益々御引立奉萬謝候陳者御注文ノ品前記ノ通御送付候到著御査收被置度此段御案内申上候也

第四月十四日

裏面

七　郵便切手賣下人カ發行スル切手代金領收書ニハ課税ス（三八、五宮城縣ニ回答）

八　相互保險會社ノ預納金領收證ニハ印紙ノ貼用ヲ要セス（四三、八農商務省商務局ニ回答）

九　相互保險會社ノ當座保險證券及貸付金受取保險條件回復證書ニハ第四條ニ依リ課税ス（同上）

一〇　運送契約ニ依ル送狀ハ商法ニ於ケル運送狀ノ如ク荷送人ノ發行スルモノニ限ラス荷モ運送カ運送契約ニ依リ營業的ニ行ハレタル場合ニ其ノ發送ノ爲發行シタルモノナルトキハ其ノ作成者カ荷送人タルト運送人タルトハ問フ處ニ非ス故ニ荷送人ハ別ニ送狀ノ發行ヲ爲サス運送業者カ荷送人ト締結シタル運送契約ニ依リ履行ノ爲發行シタル荷受人ニ到着シ運送ニ關スル權利義務ヲ證明シ得ル文書ナルトキハ運送契約ニ依ル送狀ト解シ課税ス（四四、五、一八民事局ニ回答）

一一　煙草鹽賣渡票ハ代金即納タルト延納タルトヲ問ハス買受人カ之ニ現品ノ領收ヲ證明シタルトキハ受取書ト認ムヘキモノトス（大正元、一二、二一專賣局ニ回答）

一二　辯護士ノ發スル受取書ト雖收益ヲ目的トスルモノハ印紙ヲ貼用セシムヘキモノナレトモ收益ノ有無ハ實際明確ナル區別ヲ立テ難キニ依リ便宜上一般ニ印紙ノ貼用ヲ要セサルモノトス（四四、一二、二三司法省ニ回答）

一年以上使用ノ帳簿

第七條　一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第四章　納税法

納ムルモノノ種類

第六條　印紙税ハ證書帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙税額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ税印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

税印押捺請求方

明治三十二年三月大藏省令第五號　税印押捺請求方ノ件

印紙税法第六條ニ依リ税印押捺ヲ求メムトスル者ハ適當ノ税務署ニ申出税金ヲ納付シ其領收書又ハ税務署ノ納税濟證明書ヲ添ヘ用紙ト共ニ請求書ヲ札幌・東京・大阪・名古屋・仙臺・廣島・熊本。各税務監督局又ハ函館・小樽・上京・横濱・神戸・長崎・金澤・八王

子・川越・千葉・甲府・大津・静岡・姫路・岡山・佐賀・長野・新潟・足利・四日市（三重縣）津・岐阜・盛岡・福島・青森・秋田・山形・酒田・米澤・福井・富山・高岡・尾道・下關・松江・高松・徳島・高知・松山・福岡・小倉・大分・鹿兒島各税務署ニ提出スヘシ

税印押捺請求者ハ口頭ヲ以テ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

税印押捺請求者用紙返送ニ要スル郵便料金ニ相當スル郵便切手ヲ併セ提出スルトキハ税務監督局又ハ税務署ハ税印押捺ノ上郵便ヲ以テ用紙ノ返送ヲ爲スヘシ

損傷汚染用紙ノ改印

明治三十九年九月大藏省令第四十一號　損傷又ハ汚染シタル税印押捺用紙改印ノ件

印紙税法第六條ニ依リ税印押捺ヲ受ケタル用紙ニシテ證書又ハ帳簿調製完了前損傷又ハ汚染シタルモノアルトキハ一口十枚以上ニ限リ代用紙ヲ提出シテ更ニ税印ノ押捺ヲ請求スルコトヲ得

但シ損傷又ハ汚染用紙ノ税印ノ抹消ヲ受クヘシ

印紙貼用方

第九條　印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第五章　收税官吏ノ權能

第十條　印紙ヲ貼用スヘキ帳簿・賣買仕切書・送狀ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第六章　罰則

無印紙

第十一條　證書・帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ税印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

檢査拒否

第十二條　第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

不當貼用

第十三條　第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

刑法中ノ除外規定

第十四條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪・減輕・再犯加重・數罪俱發ノ例ヲ用キス

參照法令

（刑法第三編營業稅ノ部ニ揭出）

行政實例

一　通帳ニ相當印紙ヲ貼用セス一月ヨリ七月迄使用シタル所爲ヲ八月ニ發見シタルモノニ對スル時效ノ起算點ハ一月ナリトス（三三、五、一九青森稅務管理局ニ回答）

二　前項ノ發見六月以前ニシテ一旦處罰セラレタルモノ尙無印紙ノ儘引續キ十二月マテ使用シタル所爲ハ處罰スヘキモノニアラス（同上）

三　明治四十二年一月一日通帳一册ヲ調製シ相當印紙稅ヲ納付セスシテ同日ヨリ同年七月三十一日迄使用シタルモノヲ同年八月ニ至リ發見シタルトキノ公訴ノ時效ハ最初ノ附込ノトキヨリ起算ス（四二、一一、二五丸龜稅務監督局ニ回答）

不動產登記ノ稅率

第七編　登錄稅（抄錄）

第一章　納稅義務ノ發生

登錄稅法（明治二十九年三月法律第二十七號）

第二條　不動產ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ五

二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ五

三　遺言・贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ六十

但シ神社・寺院・祠宇・佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ　不動產價格　千分ノ三十

四　第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ三十五

五　從來保有セル所有權ノ保存　不動產價格　千分ノ五

六　共有物ノ分割（分割ニ因リテ受クル不動產ノ價格）　不動產價格　千分ノ二十五

七　永代ノ地上權ノ取得　不動產價格　千分ノ五

八　地上權・永小作權ノ取得

存續期間十年未滿　不動產價格　千分ノ二

存續期間二十年未滿　不動產價格　千分ノ三

存續期間三十年未滿　不動產價格　千分ノ四

存續期間三十年以上　不動產價格　千分ノ五

存續期間ノ定メナキモノ　不動產價格　千分ノ五

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

九　賃借權ノ取得

存續期間十年未滿　不動產價格　千分ノ一

存續期間十年以上　不動產價格　千分ノ二

存續期間ノ定ナキモノ　不動產價格　千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

十　地役權ノ取得　要役地價格　千分ノ一

十一　華族世襲財產ノ創設　不動產價格　千分ノ二十五

十二　先取特權ノ保存又ハ取得（債權金額又ハ不動產工事費豫算金額）　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三　質權・抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タ

ルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十四　競賣・强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ六

但シ競賣若ハ强制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十五　假差押　假處分　債權金額　千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十六　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十七　相續財產ノ分離　所有權ニ付テハ　不動產價格　千分ノ六

所有權以外ノ權利ニ付テハ　不動產價格　千分ノ一

十八　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復　不動產每一箇　金二十錢

十九　假登記　不動產每一箇　金二十錢

二十　（削除）

二十一　附記登記　不動產每一箇　金十錢

但シ一件ニ付稅割金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

二十二　登記ノ更正・變更又ハ抹消　不動產每一箇　金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

參照法令

民法

第百七十七條　不動產ニ關スル物權ノ得喪及變更ハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百五條　不動產ノ賃貸借ハ之ヲ登記スルトキハ爾後其不動產ニ付物權ヲ

所得シタル者ニ對シテモ其ノ効力ヲ生ス

第九百八十六條　家督相續人ハ相續開始ノ日ヨリ前戸主ノ有セシ權利義務ヲ承繼ス但シ前戸主ノ一身ニ專屬セルモノハ此ノ限ニ在ラス

第千十一條　遺產相續人ハ相續開始ノ時ヨリ被相續人ノ財產ニ屬セシ一切ノ權利義務ヲ承繼ス但シ相續人ノ一身ニ專屬セシモノハ此ノ限ニ在ラス

第千八十九條　遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其効力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ發シタル場合ニ於テ其ノ條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノトキヨリ其ノ効力ヲ失フ

第五百四十九條　贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ財產ヲ無償ニテ相手方ニ與フルコトノ意思ヲ表示シ相手方カ承諾ヲ爲スニ因リテ効力ヲ生ス

第五百五十五條　賣買ハ當事者ノ一方カ或財產ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第五百五十九條　本節ノ規定ハ賣買以外ノ有償契約ニ之ヲ準用ス但シ其ノ契約ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五百七十九條　不動產賣主ハ賣契約ト同時ニ爲シタル買戻ノ特約ニ依リ買主カ拂ヒタル代金及契約ノ費用ヲ返戻シテ賣買ノ解除ヲ爲スコトヲ得（但書略）

第五百八十六條　交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非サル財產權ヲ移轉スルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルトキハ其ノ金錢ニ付テハ賣買ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス

不動產登記法第百五條　未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ揭ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一　土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者

二　判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

同第百六條　未登記建物所有權ノ登記ハ左ニ揭クル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一　建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラレタル者

二　土地臺帳謄本ニヨリ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ敷地ノ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者

三　既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

四　判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

民法

第二百五十五條　地上權者ハ他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ其土地ヲ使用スル權利ヲ有ス

第二百七十條　永小作人ハ小作料ヲ拂ヒテ他人ノ土地ニ耕作又ハ牧畜ヲ爲ス權利ヲ有ス

第六百一條　賃貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ賃金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ効力ヲ生ス

第二百八十條　地上權者ハ設定行爲ヲ以テ定メタル目的ニ從ヒ他人ノ土地ノ便益ニ供スル權利ヲ有ス但シ第三章第一節中公ノ秩序ニ關スル規定ニ違反セサルコトヲ要ス

第三百二條　先取特權者ハ本法其ノ他ノ法律ノ規定ニ從ヒ其ノ債務者ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四十二條　質權者ハ其ノ債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百六十九條　抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サスシテ債務ノ擔保ニ供シタル不動產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

競賣法第一條　競賣ノ申込ハ他ノ高價競込ノ申込アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣ヲ終了シタルトキハ當然其ノ効力ヲ失フ

民事訴訟法第七百七條　裁判所ハ强制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ付干涉スルコト及ヒ不動產ノ收益ニ付處分スルコトヲ禁シ又ハ不動產ノ收益ノ給付ヲ爲スヘキ第三者アルトキハ第三者ニ其ノ後ノ給付ヲ管理人ニ爲スヘキコトヲ命スヘシ(第一項)

同第七百三十七條　假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付不動產又ハ不動產ニ對スル强制執行ヲ保存スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

同第七百五十五條　係爭物ニ關スル假處分ハ現狀變更等ニ因リ當事者ノ一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハスシテ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

民法第千四十一條　相續債權者又ハ受遺者ハ相續開始ノトキヨリ三个月內ニ相續人ノ財產ヲ分離スルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得其ノ期間滿了後ト雖モ相續財產カ相續人ノ固有財產ト混合セサル間亦同シ

不動產登記法第二條　假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一　登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ

二　前條ニ揭ケタル權利ノ設定、移轉又ハ消滅ノ請求權ヲ保存セムトスルトキ右ノ請求權カ始期又ハ停止條件ナルトキ其ノ他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

行政實例

一　既登記ノ不動產ヲ相續人カ登記スルトキハ相續登記ヲ爲スヘキニ付所有權移轉トシテ納稅セシム（三二、七、八福岡地方裁判所ニ回答）

二　入夫及尊屬親戶主トナリ相續登記ヲ爲ストキハ第二號ニ依リ納稅セシムルモノトス（三三、九、七奈良區裁判所ニ回答）

三　相續人ヨリ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ所有權保存トシテ納稅セシム（三三、六、一二宇都宮地方裁判所ニ回答）

四　外國貨幣ヲシテ債權額ヲ記載セルモノハ本邦貨幣ニ換算シテ納稅セシムルモノトス（三八、一一、二八主稅局通牒）

五　不動產每一箇トハ土地ニ付テハ一筆建物ニ付テハ一棟ヲ云フ（三二、五、三白河區裁判所ニ回答）

六　不動產每一箇ト稱スル建物ニ付テハ主タル建物ト附屬建物トヲ論セス一棟ヲ爲スモノハ一箇トス（三二、六、二九西條區裁判所ニ回答）

七　主タル建物ト附屬建物トハ併セテ一棟ノ建物ト看做シ徵稅ス（四〇、一二司法省通牒）

八　附記登記ト雖稅法ニ特別ノ種目アルモノニ付テハ其ノ種目ニ依リ登錄稅ヲ徵收スヘク第二十一號ニ依リ徵稅スルハ民法第三百九十三條等ニ定メタル場合ナリ（三二、七、二〇福岡區裁判所ニ回答）

九　數筆ノ土地ニ抵當權ヲ設定シタル後債權者ニ於テ其ノ內一筆ニ對スル抵當權ヲ拋棄シタルトキハ一筆ニ對スル抵當權ノ消滅登記申請ニ依リ他ノ土地ニ付テハ登錄稅ヲ徵收セス職權ヲ以テ附記登記ヲ爲スコトヲ得（三二、一二、三高知地方裁判所ニ回答）

一〇　農工銀行カ年賦償還貸付金ノ債權及其ノ擔保タル抵當權ヲ擔保トシテ勸業銀行ヨリ借入ヲ爲シタル場合ニ於ケル登記ハ附記ニ依リ抵當權ノ登記ヲ爲シ第二十一號ニ依リ納稅セシム（三八、一一、五民刑局ヨリ主稅局ニ回答）

一一　土地ノ分合ハ登記ノ變更ニシテ第二十二號ニ該當ス（三二、五、三白河區裁判所ニ回答）

一二　土地ノ分合ハ分合以前ノ筆數ニ依リ徵稅ス（同上）

一三　質權抵當權ノ債權返濟ノ期限ヲ延期シ又ハ利子ヲ變更スルトキモ登記ノ

變更トシテ不動產ノ箇數ニ依リ徵稅ス（同上）

一四　質權抵當權ノ債權金額ノ增加ハ登記ノ變更トシテ不動產箇數ニ依リ徵稅ス（同上）

一五　所有權者債主又ハ負債主ノ住所又ハ氏名ノ變更ハ第二十二號ニ依リ徵稅ス（同上）

一六　共有物不分割ノ登記ヲ單獨ニテ申請シタルトキト雖處分ノ制限トシテ登記シ第二十二號ニ依リ徵稅ス（三二、八、八青森區裁判所ニ回答）

一七　抵當權設定後土地ノ筆數ニ變更アリタルトキハ抹消登記ヲ爲ス登錄稅ハ現在筆數ニ依ル（三二、一二、二六大分區裁判所ニ回答）

一八　相續開始前抵當權又ハ質權ノ辨濟アリタルモノハ相續人ニ於テ直ニ抹消ノ登記ヲ爲シ得ルモノトス但シ開始後ニ辨濟アリタル場合ニ於テハ先ツ相續人ニ於テ權利ニ付相當ノ登記ヲ爲シ然ル後抹消ノ登記ヲ爲スモノトス（三三、一一、二九德島區裁判所ニ回答）

一九　附屬數棟新築シタルトキハ新築シタル棟數ニ應シ變更トシテ徵稅スルモノトス（三三、一二、二四岐阜區裁判所ニ回答）

二〇　第二十二號ノ規定ハ豫告登記ニ適用ナシ（三八、六、一仙台區裁判所ニ回答）

二一　神社寺院佛閣合併跡地ノ贈與登記ニ付テハ第二條第一項第三號ニ依ル（四一、八）

二二　町村合併ノ結果舊町村所有ノ不動產ヲ新町村名義ト爲スニハ移轉トシテ登記ヲ爲ス（大正元、五）

土地臺帳登錄ノ稅率

第五條　土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄	地價	千分ノ二十
二　地價ノ設定	地價	千分ノ十
三　地價ノ修正	地價	千分ノ十
四　開墾	地價	千分ノ十
五　開墾鍬下年期付與	地價	千分ノ十
六　地價据置年期付與	地價	千分ノ十
七　新開免租年期延長	地價	千分ノ十
八　鍬下年期・地價据置年期ノ延長	地價	千分ノ十
九　低價年期ノ付與	地價	千分ノ一

十　地租條例第二十二條ノ地價ノ修正地價　千分ノ一
十一　地價ノ復舊　地價　千分ノ一
本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

參照法令

土地臺帳規則施行細則

第一條　土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字、番號、地目、反別、等級、地價及有主、質取主又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定メアル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登記スヘシ

（土地異動ノ種目ハ第一號地租ノ部參照）

行政實例

一　二十九年登錄稅法制定當時ノ說明概要中

低價年期地ノ地價ハ低地價ニ依ル

地價修正ノ場合ハ修正地價ニ依ル

登錄稅ノ算出ハ一筆每ノ地價ニ依リ算出ス

無屆開墾ハ開墾及地價修正ヲ併課ス

開拓等新ニ有租地トナリタル土地ハ新規登錄ノ一方ニ課稅ス

二　拂下豫定ノ國有地御料地ニ地番ヲ付スル爲メ土地臺帳ニ揭クルモ新規登錄ニアラス（三九、五主稅局通牒）

三　拂下後土地臺帳登錄前所有權ヲ移轉シタルトキト雖他日設定地價ニ依リ拂下者ニ新規登錄トシテ課稅ス（四一、四、一〇東京稅務監督局ニ回答）

四　耕地整理法第十五條第一號ニ依リ地價ヲ設定又ハ修正スルトキハ登錄稅ヲ免除ス（四四、一一、一九熊本稅務監督局ニ回答）

五　免租地ニ對シテハ第五條第二項ニ依リ課稅ス（四〇、五、二七秋田稅務監督局ニ回答）

登錄稅法施行規則　明明三十二年五月勅令第二百五號

第四條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第五條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金納付ノ手續ヲ爲ササルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

同上ノ登錄稅ヲ納メサルトキノ手續

明治三十二年五月大藏省訓令第三十八號

稅務管理局

登錄稅法施行規則第四條ニ依リ印紙ヲ提出シタル者アルトキハ左ノ通取扱フヘシ

一　稅務署ハ印紙ノ提出者ニ對シ其ノ領收證ヲ交付スヘシ但シ提出者ノ面前ニ於テ以下三項ノ手續ヲ爲シタルトキハ領收證ノ交付ヲ要セス

二　土地ノ異動ニ關シ土地所有者ヨリ願出又ハ屆出アリタルニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ要スルニ至リタル場合ニ於テハ土地ノ異動ニ關スル願書又ハ屆書ニ其ノ印紙ヲ貼付シ置クヘシ

三　土地ノ異動ニ關シ官廳ヨリ通知アリタルニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ要スルニ至リタル場合ニ於テハ通知書ニ其ノ印紙ヲ貼付シ置クヘシ

四　前二項ヲ除ク外ノ場合ニ於テハ土地所有者ノ住所・氏名・

登錄ヲ要スル土地ノ所在・地番・地目・地價及ヒ登錄稅法第五條中該當事項ヲ記シタル調書ヲ作リ之ニ其ノ印紙ヲ貼用スヘシ

五　貼付シタル印紙ニハ書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ黑肉ヲ用ヰテ消印ヲ押捺スヘシ

六　二項乃至四項ニ依リ印紙ヲ貼付シタル書類ハ少ナクトモ毎月一回上司ニ於テ檢閱シ貼付印紙及消印ノ有無當否ヲ調査スヘシ

船舶登記ノ稅率

第三條　船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ三

二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ三

三　遺言・贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

四　第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ二十五

四ノ二委付　船舶價格　千分ノ三

五　從來保有セル所有權ノ保存　船舶價格　千分ノ三

六　賃借權ノ取得　船舶價格　千分ノ一

存續期間十年未滿　船舶價格　千分ノ二

存續期間十年以上　船舶價格　千分ノ一

存續期間ノ定メナキモノ

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

七　質權・抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス　債權金額　千分ノ六

八　競賣ノ申立

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス　債權金額　千分ノ四

九　差押・假處分

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス　債權金額　千分ノ六

十　抵當アル債權ノ差押

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復　船舶每一箇　金二十錢

十二　假登記　船舶每一箇　金二十錢

十三　（刪除）

十四　附記登記　船舶每一箇　金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十五　登記ノ更正・變更又ハ抹消　船舶每一箇　金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

參照法令

船舶法第五條　日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海廳ニ備ヘタル船舶原籍ニ登錄ヲ爲スコトヲ要ス（第二案）

行政實例

一　明治十年第二十八號布告船舶賣買書入質手續ニ從ヒ公證ヲ經タル證書面ノ登記ニ付テハ課稅スヘキモノトス（三二、一〇、一一山口地方裁判所ニ同答）

二　縣ニ於テ取得シタル船舶ノ登記ハ登錄稅ヲ要ス（大正元年五月司法省通牒）

三　船舶委任ノ登記ハ登錄稅ヲ要セス（大正元年三月司法省通牒）

四　同一債權ノ擔保タル不動產ト船舶ニ對スル抵當權登記トハ各別ニ徵稅スヘシ（大正元年一月）

船舶登錄ノ稅率

第四條　船舶ノ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　每十噸　金五十錢

二　轉籍　每十噸　金十錢

三　除籍　每十噸　金五錢

四　登錄ノ變更　船舶每一箇　金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

施行規則

第五條ノ二　管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登錄稅ヲ徵收スヘシ

參照法令

船舶法

第十四條　日本船舶カ滅失若ハ沈沒シタル時解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ揭クル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ抹消ノ登錄ヲ爲シ且遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六个月間分明セサル時亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登錄ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一箇月內ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其ノ手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ得

法人登記ノ稅率

第六條　商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ第一號・第三號・第六號・第九號ノ場合ニ於テ稅金額十五圓未滿ナルトキハ十五圓トス

一　合名會社・合資會社設立　財產ヲ目的トスル出資ノ價格　千分ノ四
二　合名會社・合資會社出資增加　財產ヲ目的トスル增出資價格　千分ノ四
三　株式會社設立　拂込株金額　千分ノ五
四　株式會社資本增加　增資拂込株式金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ五
五　株式會社第二回以後ノ株金拂込　每回拂込金額　千分ノ五
六　株式合資會社設立　拂込株式金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ五
七　株式合資會社資本增加　增資拂込株式金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ五
八　株式合資會社第二回以後ノ株金拂込　每回拂込金額　千分ノ五
九　合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立　拂込株金額及財產ヲ目的トスル株式以外ノ出資ノ價格　千分ノ二
十　合併ニ因ル會社資本ノ增加　增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ二

十一　社債拂込金額　毎回拂込金額　千分ノ二
十一ノ二　第二回以後ノ社債拂込　毎一箇所　千分ノ二
十二　支店設置　毎一件　金十五圓
十三　本店又ハ支店ノ移轉　金七圓
十四　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　毎一件　金七圓
十五　登記事項ノ變更・消滅又ハ廢止　毎一件　金七圓
但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス
十六　登記ノ更正又ハ抹消　毎一件　金七圓
十六ノ二　合名會社・合資會社設立ノ取消　毎一件　金五圓
十七　解散　毎一件　金五圓
十八　清算人ノ選任・解任又ハ變更　毎一件　金一圓五十錢
十九　清算ノ終了　毎一件　金一圓五十錢
支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金一圓五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ
財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　法人ノ設立・法人設立後ノ事務所設置・事務所ノ移轉　毎一件　金一圓五十錢
二　登記事項ノ變更消滅又ハ廢止・登記ノ更正又ハ抹消・解散、清算人ノ選任・解任又ハ變更・清算ノ結了　毎一件　金七十錢

主タル事務所ニアラサル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金七十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ
產業組合・產業組合聯合會・產業組合中央會又ハ漁業組合・漁業組合聯合會ニシテ登記ヲ受クル場合ニハ前二項ノ規定ニ依ル但シ產業組合原簿又ハ產業組合聯合會原簿ノ記載ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

參照法令

商法

第四十二條　本法ニ於テ會社トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立

シタル社團ヲ謂フ

營利ヲ目的トスル社團ニシテ本編ノ規定ニ依リ設立シタルモノハ商行爲ヲ業トセサルモ之ヲ會社ト看做ス

同第四十三條　會社ハ合名會社、合資會社、株式會社及株式合資會社ノ四種トス

行政實例

一　第二項ノ支店所在地トハ支店所在地ヲ管轄スル登記所管轄區域內ト解スルヲ相當トス（三二、二、一三山口地方裁判所ニ回答）

二　會社登記ノ變更ノ事由カ數次ニ發生シタル場合ニ於テモ之ヲ取纏メ同一申請書ヲ以テ申請シアルトキハ一事件トシテ取扱ヒ一件分ヲ徵稅ス（大正三、五、二三各裁判所ニ回答）

三　株式會社カ定款ヲ改正シ其ノ商號、目的、公告ヲ爲ス方法及存在時期ニ變更ヲ生シタルトキハ變更ノ原因ヲ同フスルモ登記事項ヲ異ニスルヲ以テ四件トシ課稅ス（三二、七、二六大分地方裁判所ニ回答）

四　株式會社カ資本ヲ減少シ資本ノ總額及一株ノ金額ニ變更ヲ生シタルトキハ前號ノ例ニ依リ二件トシ徵稅ス（同上）

五　取締役五名滿期改選ノ爲メ更迭シタルトキ及取締役中ノ二名ヲ變更シ一名ハ住所ヲ移轉シタルモノナルトキ又ハ合資會社ノ社員數十名カ一名若ハ數名ニ對シ出資ノ讓渡ヲ爲シタルトキハ變更ノ原因カ同一ナルト否トヲ問ハス一件トシテ徵稅ス（同上）

六　株式會社カ公告ヲ爲ス方法ヲ變更スルト同時ニ監査役ノ氏名住所ノ變更アリテ同時ニ之カ登記ヲ申請スル場合ハ二件トシ徵稅ス（三二、八、二八福岡地方裁判所ニ回答）

七　第十二號支居設置ノ登錄稅ハ會社本店所在地ニ於テノミ課スルモノトス但シ支店所在地ニ於テハ第二項ノ登錄稅ヲ徵收スルモノトス（三二、一二二福岡地方裁判所ニ回答）

八　第十五號ニ登記事項ノ變更トハ同條中ニ規定シタル以外ノ事項ニ就キ變更アリタル場合ニ適用スルモノトス（三二、一二、八民刑局ヨリ主稅局ニ同答）

九　株式會社カ本店ヲ甲區裁判所管內ヨリ乙區裁判所管內ニ轉スルトキハ乙區裁判所ニ於テ移轉ノ登記ヲナシ納稅スルモノトス（三三、三、三八代區裁判所ニ回答）

十　會社カ本店又ハ支店所在地ニ非サル場所ニ始メテ支店ヲ設ケタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ第十二號ニ依リ支店ノ所在地ニ於テハ第二項ニ依

リ納稅スルモノトス（三三、三、二〇山口地方裁判所ニ回答）

十一 本店竝ニ支店ニ置キタル支配人及本店ニノミ置キタル支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅ニ付本店所在地ニ於テ爲ス登記ニ對シテハ第十四號ニ依リ課稅スヘク本店竝支店ニ置キタル支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅ニ付支店所在地ニ於テ爲ス登記及或支店ノミニ置キタル支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅ニ付其ノ支店ニ付其ノ支店所在地ニ於テ爲ス發記ニ對シテハ第二項ニ依リ徵稅ス（三三、四、一六高田區裁判所ニ回答）

十二 社員持分ヲ他ノ社員ニ讓渡シタルヲ以テ之カ變更登記ヲ同時ニ爲ストキハ一件トシテ納稅セシム（三三、六、一九伏見區裁判所ニ回答）

十三 商法施行法第八十條ノ登記ハ第十號ニ依ルヘキモノトス（三三、一一、二八岡山區裁判所ニ回答）

十四 商事會社解散ノ場合清算人五人ヲ選任シ同時ニ清算人選任登記ヲ申請スルトキト雖清算人一人一件トシテ納稅セシム（三四、四、二三高田區裁判所ニ回答）

十五 合資會社カ定款ヲ變更シ或者カ金七百五十圓ヲ出資シ新ニ加入シタル場合ハ第二號ニ依リ一件トシテ徵稅ス（同上）

十六 市區町村內ノ土地名稱變更ニ依リ會社登記簿中本店支店ノ土地ノ名稱及重役等ノ住所ニ變更アルモ同一ノ申請書ニ依ルトキハ一件トシテ徵稅ス（四四、五、八司法省通時）

十七 商法第五十三條第一項ニ依リ第五十一條第一項ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ第二項ニ依リ徵稅ス（三四、三、五伊萬里區裁判所ニ回答）

十八 取締役二人同時ニ辭任シ同時ニ補缺選任ヲ爲シタルトキハ變更登記一件トシテ徵稅ス（四三、八）

十九 取締役又ハ監査役ノ任期滿了ニ因ル更迭ニ關スル登記ハ其ノ退任ト選任ハ時期ヲ異ニスル場合ニ於テハ二件、退任ト同時ニ變更シタルトキハ一件分トシテ徵稅ス（四三、八）

第六條ノ二　左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

商號及支配人等登記ノ稅率

一	商號ノ新設又ハ取得	毎一件　金七圓
二	支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	毎一件　金七圓
三	船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	毎一件　金七圓
四	商法第五條第七條ニ依ル登記	毎一件　金三圓

五　民法第七百九十四條第七百九十五條第七百九十七條ニ依ル登記　毎一件　金三圓

六　登記事項ノ變更・消滅又ハ廢止　毎一件　金一圓五十錢

七　登記ノ更正又ハ抹消　毎一件　金一圓五十錢

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金七十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

參照法令

商法

第五條　未成年者又ハ妻カ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七條　法定代理人カ親族會ノ同意ヲ得テ無能力者ノ爲ニ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲ンコトヲ要ス（第一項）

第十六條　商人ハ其ノ氏名其他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得

第二十九條　商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其ノ商業ヲ營マシムルコトヲ得

第五百十二條　船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス（第一項）

第二章　課稅外ノ登記及登錄

第十九條　左ニ掲クルモノニハ登錄稅ヲ課セス

一　政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登錄

二　府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動產ノ登記又ハ登錄

三　社寺堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記又ハ登錄

四　明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第百四十八號布告書物書入質入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

參照法令

（其ノ他ノ公共國體ニ關シ第二編所得稅第二章課稅外ノ所得ノ部掲記參照）

行政實例

一　酒造稅法ニ依ル納稅保證登記ニハ登錄稅ヲ要セス（三二、五、一八新潟地方裁判所ニ回答）

二　郵便局長身元保證抵當權設定登記ニハ課稅セス（三三、一、一一大島區裁判所ニ回答）

三　公園維持ノ爲基本財產トシテ寄附セシ土地ノ登記ニハ徵稅ス（三三、四、一二觀音寺區裁判所ニ回答）

四　縣有公用ノ船舶ノ登記ニハ徵稅ス（四〇、一、一〇主稅局長ヨリ民刑局長回答）

五　縣有模範林ノ登記ニハ課稅セス（四一、一二司法省ヨリ農商務省ニ回答）

六　農事試驗場買入ノ登記ニハ登錄稅ヲ要セス（四一、四）

七　第一號乃至第三號ノ登記ニハ登錄ヲ含ム（四四、五主稅局ヨリ東京稅務監督局ニ回答）

八　縣カ起業シタル輕便鐵道買收用地ノ登記ニハ徵稅ス（四五、四、一主稅局ヨリ民事局ニ回答）

九　縣ガ學校跡地ヲ個人ニ賣却スルモ學校敷地トシテ保存登記ヲ爲ス場合ハ課稅セズ（大正四、二、一九高知地方裁判所回答）

一〇　不動產登記法第二十八條ノ二第百二條ノ三第二項第百三條ニ依ル代位登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス（大正二、六、一〇新潟地方裁判所ニ回答）

一一　公用ノ中ニハ公共ノ用ヲ含ム（大正二、五、二七大藏省議決定）

一二　債務者所有ノ不動產ニ付債權者タル政府カ競賣ノ申立ヲ爲シ裁判所カ其ノ登記ヲ囑託スルトキニハ登錄稅ヲ要セス（四四、一一）

一三　神社財產ノ登記及其ノ抹消登記ニハ登錄稅ヲ要セス（四一、一一司法省通牒）

一四　市町村カ買收シタル屠場ノ登記ニハ登錄稅ヲ要セス（四一、一一司法省通牒）

一五　市町村ニ於テ模範林造設ノ爲ニスル土地ノ所有權ノ移轉登記ニハ課稅セス（大正元一〇司法省通牒）

一六　神社若ハ本尊ヲ奉齊安置スル堂宇ノ敷地登記ニハ課稅セス（四二、九司法省通牒）

一七　府縣立農林學校實習用土地登記ニハ課稅セス（四二、四）

一八　縣カ警察署敷地ヲ買入レタル場合ニハ課稅セス（四一、二司法省通牒）

國稅徵收法

明治三十年三月法律第二十一號

第二十三條ノ四　差押ノ解除ニ關シテハ登錄稅ヲ要セス

行政實例

府縣稅及市町村稅ノ滯納處分ニ因ル差押ノ登記ニハ課稅セス（三八、四、一二司法省通牒）

耕地整理法　明治四十二年四月法律第三十號

第十條　耕地整理施行ノ爲メ土地又ハ建物ニ付登記又ハ登錄ヲ爲ストキハ登錄稅ヲ免除ス

前項ノ規定ハ耕地整理ノ施行ニ伴ヒ大字若ハ字ノ名稱又ハ其ノ區域ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

行政實例

耕地整理法登記令第八條ノ二ニ依ル代位登記ニ對シテハ課稅セス（大正二、八、七山形地方裁判所ニ回答）

北海道國有未開地處分法　四十一年四月法律第五十七號

第二十條　土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以內ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地臺帳ニ登錄スルトキハ其ノ登錄稅ヲ免除ス（第一項）

北海道舊土人保護法　明治三十二年三月法律第二十七號

第二條（第二項）　前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス又登錄稅ヲ課セス

北海道土功組合法　明治三十五年三月法律第十二號

第九條　組合事業ヲ施行シタルカ爲土地ノ登記又ハ登錄ヲ爲ストキハ登錄稅ヲ免除ス

永代借地權ニ關スル法律　明治三十四年九月法律第三十九號

第三條　永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

行政實例

永代借地上ニ建設シタル建物ノ登記ハ課稅セス（四二、六、四主稅局通牒）

保險業法　明治三十三年法律第六十九號